第 3 章　経済・産業

～域内循環と外から稼ぐ力を高める仕組みをつくる～

[redacted]

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	農業用水道管理事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	阿寒・音別地区では、農業基盤の整備のため農業用水道施設を整備し、安心・安全な水を供給している。各施設の状況に応じた計画的な整備を実施し機能の維持を図ることで、安定的な農業経営に寄与する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	64,675	126,914	58,670
財源	一般財源	（千円）	17,407	23,754	19,070
	国道支出金	（千円）	22,268	34,460	
	地方債	（千円）	25,000	68,700	39,600
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和4年度（決算額）**	**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	3,623
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		814.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		440.7	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○農業水路等長寿命化・防災減災事業
農業用水道施設設備更新工事
（阿寒地区）
共和、西徹別、紀ノ丘浄水場における、老朽化の進んだ施設の設備・機器等の更新を行い、安心・安全な水の供給を行う。
共和、西徹別、紀ノ丘浄水場の施設・機器等の更新

（音別地区）
上音別、川西農業用水道における、老朽化の進んだ施設の設備　・機器の更新を行い、安心・安全な水の供給を行う。
上音別、川西農業用水道の設備・機器等の更新

○道営水利施設等保全高度化事業
上音別農業用水道施設沈砂池・取水施設道営工事（令和5～7年着工予定）測量

(2)事業の実績と成果

○農業水路等長寿命化・防災減災事業
農業用水道施設更新工事
（阿寒地区）
・共和浄水場設備更新工事
原水・浄水濁度計、残留塩素計、テレメーター、動力・ろ過器・計装盤、薬品注入装置、電力切替盤
・西徹別浄水場設備更新工事
テレメーター、残留塩素計
・紀ノ丘浄水場設備更新工事
浄水濁度計、テレメーター、残留塩素計

共和 動力・ろ過器・計装盤

西徹別 残留塩素計

紀ノ丘 残留塩素計、浄水濁度計

（音別地区）
・マンホール蓋更新工事（川西農業用水道施設）
・上音別農業用水道施設電気設備改修工事
・上音別農業用水道施設管理棟防水補修工事

管理棟防水

電気設備改

マンホール

○道営水利施設等保全高度化事業
上音別農業用水道施設沈砂池工事・バルブ及び弁更新
配水池水位計更新

バルブ弁・水位

沈砂池工

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・農業用水道施設建設以降、小規模な修繕を行い安心・安全な水の供給をおこなっている。しかし、耐用年数を超えての使用や使用頻度の高い機器が交換時期を迎えており、安定した安心安全な水の供給に支障をきたす恐れがあることから、設備の計画的更新が課題となっている。	課題	・農業用水道施設建設以降、小規模な修繕を行い安心・安全な水の供給をおこなっている。しかし、耐用年数を超えての使用や使用頻度の高い機器が交換時期を迎えており、安定した安心安全な水の供給に支障をきたす恐れがあることから、設備の計画的更新が課題となっている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・音別地区の農業用水道施設については、道営事業を活用し高度化及び更新を行っていく。また、阿寒地区については、設備等の耐用年数や消耗の度合いを考慮し、設備の計画的な更新を行っていく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・北海道の事業等を活用し、管路や機器の耐用年数や消耗の度合いを考慮し、計画的な更新を行っていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	国営緊急農地再編整備事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	本地区の農地は、排水不良や小区画で不整形なほ場が多く、離農跡地の取得により分散化していることから、効果的な農作業ができない状況となっているため、地域が目指す粗飼料の分業化・組織による農作業の効率化に向け、区画整理によるほ場の大区画化や排水不良を解消することと併せて、農地を集団化することにより、効率的な農作業を可能とする生産性の高い基盤整備を構築する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	24,011	37,998	42,220
財源	一般財源	（千円）	264	230	204
	国道支出金	（千円）	15,716	23,934	26,101
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	8,031	13,834	15,915
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	14,080	14,272	14,490
	職員数	（人）	2.0	2.0	2.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		243.8	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

令和5年度事業計画
① 阿寒工区換地計画
・一時利用地の指定（172.9ha）

②釧路工区換地計画
・一時利用地の指定（96.5ha）

③施工順番に関する権利者調整及び通年施工実施に向けた受益者調整
　翌年度の工事実施に向けた整備要望や作付け計画について、関係権利者との調整を行い施工順番及び夏期施工の対象地を決定する。

国営緊急農地再編整備事業「阿寒地区」の計画概要
・地区計画面積　2,407ha
・受益戸数　53戸
・総事業費（予定）　11,000,000千円
　事業負担　国：8,250,000千円　道　：2,013,000千円
　市：　440,000千円　受益者：　297,000千円
・地区調査計画
　平成26年度～平成29年度
　農地の集団化による大区画化への区画整理（換地）と排水不良地などの調査を実施
・事業実施計画
　平成30年度～令和11年度（予定）

(2)事業の実績と成果

令和5年度実績
① 阿寒工区換地計画
・整備済区画（168.7ha)の利用を一時的に認める通知書を作成した。
②釧路工区換地計画
・整備済区画（100.0ha）の利用を一時的に認める通知書を作成した。
※12月計画変更により、一時利用地指定面積について①は減②は増となった。
③施工順番に関する権利者調整及び通年施工実施に向けた受益者調整
　翌年度の工事実施に向けた整備要望や作付け計画について、関係権利者との調整を行い施工順番及び夏期施工の対象地を決定した。

整備前

整備後

大型機械が入りにくく効率が悪い

大区画化や排水性の改善により、効率的な農作業となる

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・本事業に対する受益者（農家）との合意形成の強化。 ・工事実施と営農スケジュールとの調整。 ・事業期間が10数年に及ぶため、受益者の高齢化が進む。	課題	・本事業に対する受益者（農家）との合意形成の強化。 ・工事実施と営農スケジュールとの調整。 ・事業期間が10数年に及ぶため、受益者の高齢化が進む。
今後(令和6年度以降)の方向性	・事業を通じて将来的に農作業がしやすい土地の区画のあり方について、受益者と土地所有者との調整を行っていく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・事業を通じて将来的に農作業がしやすい土地の区画のあり方について、受益者と土地所有者との調整を行っていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	市営牧場整備事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 農業農村整備事業管理計画（北海道）
目的と概要	本事業は、酪農家の経営コスト削減や労力の省力化のため、子牛などを預かり育成する預託業務や牛に与える飼料（牧草）の管理を行うとともに、草地の適切な管理から収穫、貯蔵まで必要な整備等を行うものである。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	199,159	142,198	47,872
財源	一般財源	（千円）	34,577	24,512	49
	国道支出金	（千円）	64	70	
	地方債	（千円）	164,500	82,900	19,300
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	18	34,716	28,523
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		912.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		531.8	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○牧柵の設置
道営草地畜産基盤整備事業において、草地整備を実施したほ場に順次牧柵を設置し、預託牛の育成に必要な放牧地を確保する。

○道営草地畜産整備事業（公共牧場整備事業）
市営牧場においては、長期間の利用により不陸の発生や排水機能の低下、非牧草の侵入がみられる草地の整備を行うとともに、今年度においては、施設整備として牧場施設の舗装、パドック柵の整備や草地整備等を実施する。

(2)事業の実績と成果

○牧柵の設置
草地整備を実施したほ場において、牧柵を設置した。預託牛の育成に必要な放牧地を確保することができたため、夏季期間は放牧による預託牛の適切な管理がなされた。

○道営草地畜産整備事業（公共牧場整備事業）
牧場施設の舗装、パドック柵の整備等を実施した。本事業により新野牧場における牧場機能の集約化が図られることから、順次施設の整備を進めていく。

○草地整備
草地整備として起伏修正及び暗渠整備を実施した。また、作業機による牧草地管理作業で、牧草の繁茂密度が高まり、収量増加と採草作業の効率改善が図られた。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・作業用機械の老朽化が激しく作業に支障をきたしている。また、給水設備等の牧場施設の老朽化による故障が発生している。	課題	・作業用機械の老朽化が激しく作業に支障をきたしている。また、給水設備等の牧場施設の老朽化による故障が発生している。
今後(令和6年度以降)の方向性	・道営公共牧場整備事業による施設又は草地の整備を計画に基づき着実に実施し、生産性の向上を図る。（釧路地区）　整備した作業機械による草地改良を継続する。また、老朽化した施設の計画的な整備、修繕を実施する。（音別地区）	今後(令和7年度以降)の方向性	・作業用機械及び施設の整備を実施し、適切な牧場運営を行う。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	牛乳消費拡大事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	地元の大切な産業である酪農業への【親近感の醸成】、生産された牛乳・乳製品への【信頼性の向上】を図り、地元産牛乳・乳製品の【購買意欲の向上】を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	0	1,000	1,000
財源	一般財源	（千円）	0	0	1,000
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		1,000	

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	0	714	725
	職員数	（人）	0.0	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		6.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①【親近感の醸成】【信頼性の向上】
・イベントでの酪農PRコーナーの実施
・酪農家、JAと連携し、消費者に酪農家や牛の“顔が見える”PRキャンペーンの実施

②【購買意欲の向上】
・市内飲食店等において牛乳を使ったメニューを販売するフェアの開催
・①の取り組みを実際の消費につなげる。

(2)事業の実績と成果

①【親近感の醸成】【信頼性の向上】

○FMくしろ春採夏祭り 2023　：　モデルカウ搾乳体験
（令和5年8月12日）　その他、酪農、農業情報発信

○カラフルマルシェ　：　模擬牛による搾乳体験
（令和5年9月3日）

○山花温泉リフレ 秋の収穫祭
（令和5年9月23日）
○おんべつ北のビーナス 2023
バーベキューまつり
（令和5年10月8日）　：　根釧牛乳試飲コーナー
模擬牛による搾乳体験
牛乳パック工作コーナー

②【購買意欲の向上】

○MILK de HAPPYフェア
（令和5年11月1日～11月30日）
釧路市内のフェア参加飲食店による牛乳・乳製品を使った料理やスイーツの提供

【搾乳体験の様子】

【MILK de HAPPYフェア】

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　継続維持
課題	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	課題	・生産コスト高騰に伴う乳価の値上げが繰り返し実施されたことにより、牛乳・乳製品の消費低迷による在庫の拡大と行き場を失う生乳の発生が懸念されている。
今後(令和6年度以降)の方向性	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・地域の重要な産業である酪農への理解を深め、さらに幅広い世代の意識の醸成によって牛乳、乳製品の消費の拡大を図るためには、今後も当事業の継続が必要である。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	中山間地域等直接支払制度交付事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	中山間地域※において、農業生産の維持を図りつつ多面的機能（国土や環境の保全、自然とのふれあいを通した教育の場の提供、地域色豊かな伝統文化の継承等）を確保するという観点から、農業の環境を守るための取決めである協定に基づく農業生産活動を行う農業者（農業生産法人等を含む）の集まりである集落に対し、支援を実施する。（令和2年度～令和6年度の5か年事業）

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	82,734	87,082	92,357
財源	一般財源	（千円）	20,756	21,818	23,268
	国道支出金	（千円）	61,978	65,264	69,089
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	1,408	1,427	1,449
	職員数	（人）	0.2	0.2	0.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		558.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

耕作放棄防止などの活動の協定を結んだ集落に対し、農地面積に応じて支払われる交付金を排水路管理等の共同取組活動等に使用する。

【釧路集落】
- 交付対象農用地面積　：　15,883,153㎡
- 交付金額　：　23,824,729円
- 主な共同取組活動　：　有機肥料活用センター支援
  ﾌﾗﾜｰﾛｰﾄﾞ事業
  廃ﾌﾟﾗ適正運搬活動等

【阿寒集落】
- 交付対象農用地面積　：　27,157,545㎡
- 交付金額　：　40,736,317円
- 主な共同取組活動　：　排水路整備
  高齢者生きがい対策
  担い手の育成
  廃ﾌﾟﾗ適正運搬活動等

【音別集落】
- 交付対象農用地面積　：　17,976,801㎡
- 交付金額　：　26,965,201円
- 主な共同取組活動　：　鳥獣害防止施設の管理
  地区会館等環境美化
  各団体助成
  農業機械の有効活用等

【用語の解説】
※**中山間地域**　平地から山間地にかけての傾斜地が多く、農業に不利な地域を指す。山地の多い日本では、このような中山間地域が国土面積の約7割を占めている。

※**廃プラ**　農業用廃プラスティックの略。ビニールハウスや牧草ロールに巻きつけるラップ等を指す。

(2)事業の実績と成果

本事業により、集落構成員の積極的な活動によって、農村環境の保全がなされた。

【釧路集落】
- 交付対象農用地面積　：　15,263,917㎡
- 交付金額　：　22,895,875円
- 主な共同取組活動　：　有機肥料活用センター支援
  ﾌﾗﾜｰﾛｰﾄﾞ・ｳｪﾙｶﾑﾌﾗﾜｰ事業
  廃ﾌﾟﾗ適正運搬活動等

【阿寒集落】
- 交付対象農用地面積　：　25,942,610㎡
- 交付金額　：　38,913,915円
- 主な共同取組活動　：　排水路整備
  高齢者生きがい対策
  担い手の育成
  廃ﾌﾟﾗ適正運搬活動等

【音別集落】
- 交付対象農用地面積　：　16,427,775㎡
- 交付金額　：　24,641,662円
- 主な共同取組活動　：　鳥獣害防止施設の管理
  地区会館等環境美化
  各団体助成
  農業機械の有効活用等

ﾌﾗﾜｰﾛｰﾄﾞ の様子

排水路管理の様子

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・農用地の耕作放棄防止の観点から一定の効果があり、集落構成員からも評価されているが、農家の高齢化、後継者不足の問題は確実に進行しており今後においても対策が必要である。	課題	・農用地の耕作放棄防止の観点から一定の効果があり、集落構成員からも評価されているが、農家の高齢化、後継者不足の問題は確実に進行しており今後においても対策が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・中山間地域等直接支払交付金事業（国の制度による事業）は平成26年度より法制化され、令和2年度から第五期対策が始まっている。中山間地域の農業振興のためには今後も当事業の継続が必要である。	今後(令和7年度以降)の方向性	・中山間地域等直接支払交付金事業（国の制度による事業）は平成26年度より法制化され、中山間地域の農業振興のためには今後も当事業の継続が必要である。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	多面的機能支払交付金事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進し、担い手農家への農地集積という構造改革を後押しする。（令和3年度～令和7年度の5か年計画）

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	6,886	6,885	6,887
財源	一般財源	（千円）	1,648	1,647	1,648
	国道支出金	（千円）	5,238	5,238	5,239
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	1,408	1,427	1,449
	職員数	（人）	0.2	0.2	0.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		44.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

地域資源の適切な保全活動等の協定を結んだ集落に対し、農地面積に応じて支払われる交付金を農用地、水路、農道の整備等に使用する。

【釧路集落】
交付対象農用地面積　：　194,535a
交付金額　：　2,528,955円
主な共同取組活動　：　農業者の検討会
水路・農道の整備・管理等

【阿寒集落】
交付対象農用地面積　：　311,975a
交付金額　：　4,055,675円
主な共同取組活動　：　農業者の検討会
水路・農道の整備・管理等

多面的機能支払交付金事業の概要
・地域共同で行う多面的機能を支える活動や、地域資源（農地・水路・農道等）の質的向上を図る活動を支援

○農地維持支払
【対象活動】
・農地法面の草刈、水路の泥上げ、農道の路面維持等地域資源の基礎的保全活動
・農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化保全管理構想の策定等

○資源向上支払
【対象活動】
・地域資源の質的向上を図る共同活動（水路・農道・ため池の軽微な修繕、農村環境保全活動の幅広い展開）
・施設の長寿命化の活動

(2)事業の実績と成果

本事業により、集落構成員の積極的な活動によって、地域資源の適切な保全がなされた。

【釧路集落】
交付対象農用地面積　：　194,535a
交付金額　：　2,528,955円
主な共同取組活動　：　農業者の検討会
水路・農道の整備・管理等

【阿寒集落】
交付対象農用地面積　：　311,960a
交付金額　：　4,055,480円
主な共同取組活動　：　農業者の検討会
水路・農道の整備・管理等

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・農用地、水路、農道等は経年による劣化が進むため継続的な保全活動が求められている。	課題	・農用地、水路、農道等は経年による劣化が進むため継続的な保全活動が求められている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・令和3年度から令和7年度までの5か年計画で事業を進めており、安定した地域農業の経営基盤を確立するためには、今後も当事業の継続が必要である。	今後(令和7年度以降)の方向性	・令和3年度から令和7年度までの5か年計画で事業を進めており、安定した地域農業の経営基盤を確立するためには、今後も当事業の継続が必要である。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	農村地域人材育成推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	農村地域の担い手不足の解消、地元農産物の消費拡大を目的とし、地域おこし協力隊による釧路の農業の情報発信、就農希望者への情報提供、支援及び地元農産物のPR活動、地産地消推進活動等を行う。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	4,553	4,647	10,400
財源	一般財源	（千円）	4,553	4,647	10,400
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		29.8	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

地域おこし協力隊による釧路の農業の情報発信、就農希望者への情報提供、支援、地元農産物のPR活動、地産地消等の食育推進活動を実施する。

(2)事業の実績と成果

地域おこし協力隊を委嘱し、釧路の農業についてソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等を活用した情報発信を行った。

就農相談会等に参加し、就農希望者への情報提供等を実施した。

- 牛乳消費拡大の取り組みへの協力
- 道内大学生の酪農体験受入への協力
- 出前授業への協力

また、イベント等における地元農産物の販売や農作業体験、野菜直売所の周知等、地元農産物のPR活動を行った。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・　釧路市の農業や農産物の魅力の発信が、就農希望者の呼び込みや地元農産物の消費拡大に繋がるよう、情報発信から継続性のある取り組みを発展していくこと。	課題	・　釧路市の農業や農産物の魅力の発信が、就農希望者の呼び込みや地元農産物の消費拡大に繋がるよう、情報発信から継続性のある取り組みを発展していくこと。
今後(令和6年度以降)の方向性	・　令和5年度に委嘱予定の地域おこし協力隊員を含め、担い手不足の解消、地元農産物の消費拡大を目的とした活動を、生産者団体等と連携し実施する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・　令和6年度に委嘱予定の地域おこし協力隊員を含め、担い手不足の解消、地元農産物の消費拡大を目的とした活動を、生産者団体等と連携し実施する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	農村地域情報通信環境整備事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	農山漁村振興交付金（うち情報通信環境整備対策）を活用した情報通信設備や計装機器等の整備により、農業農村インフラである尺別農業用水道施設の管理の省力化、高度化を図る。

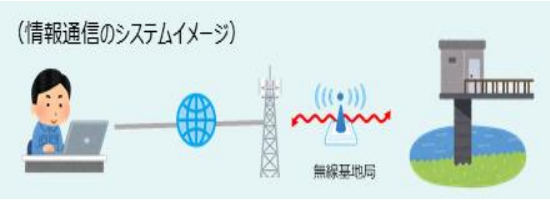
2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

通信設備等の整備により、農業農村インフラの管理の省力化、高度化を図るため、通信設備の整備に係る実施設計を実施する。

＜対象となる農業農村インフラ＞
・尺別農業用水道施設

＜実施設計＞
・整備計画に基づき実施設計を実施する。
・無線基地局の設置
・計器の設置（水位計・濁度計）



(2)事業の実績と成果

農業用水道の安定的な供給のため、取水口や浄水施設に水位計・濁度計を設置し、遠隔監視に必要な無線基地局の配置を行うための実施設計を行った。

＜対象となる農業農村インフラ＞
・尺別農業用水道施設への遠隔監視に必要な設備設計の実施。

＜実施設計＞
・整備計画を基に実施設計を実施した。

＜施設整備によるメリット＞
・荒天等により水質の悪化が見込まれる場合、これまでは施設や河川の状況を目視で確認していたが、当該施設へ濁度計、水位計を設置することで、遠隔監視が可能となり取水の停止等の判断材料としての活用と、毎日の観測データを収集し、異常の発見などの対応が迅速になる。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	10,329	5,445	33,470
財源	一般財源	（千円）	0	51	551
	国道支出金	（千円）	10,329	2,994	18,119
	地方債	（千円）		2,400	
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			14,800

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	3,623
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		34.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		15.4	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・通信状況は地形や植生などの自然環境の影響を受けることから、農業農村インフラの周辺環境や運用方法に適した通信規格等の選定が重要になる。	課題	・農業用水道の安定した安心・安全な水の供給には、施設等の計画的な整備が必要となる。
今後（令和6年度以降）の方向性	・計画に基づき農業農村インフラの通信環境整備を実施する。	今後（令和7年度以降）の方向性	・遠隔監視に係る保守管理及び各種事業を活用した施設の高度化や整備を行っていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	豊かな森づくり推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 ふるさとの山づくり総合計画
目的と概要	伐採後の確実な植林や伐採跡地等への造林を実施した森林所有者に対して、事業費の一部について補助金を交付することにより、森林資源の循環利用と森林の有する多面的機能（生物種及び生態系の保全、地球温暖化の緩和及び二酸化炭素吸収、土砂災害防止、水資源貯留及び水質浄化等）の発揮を図る。

【予算・決算データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額	（千円）	13,868	17,074	13,533
財源　一般財源	（千円）	5,344	6,595	5,206
財源　国道支出金	（千円）	8,524	10,479	8,327
財源　地方債	（千円）			
財源　使用料・手数料	（千円）			
財源　その他特定財源	（千円）			

【参考データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考① 職員人件費	（千円）	704	714	725
参考① 職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考② 市民一人あたりの費用	（円）		109.5	
参考② 市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

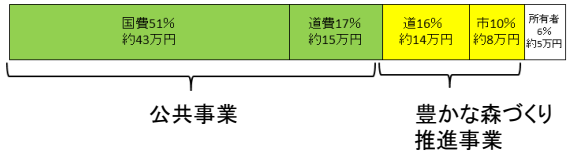
注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

伐採後の確実な造林と、森林所有者の森林整備に係る負担を軽減し、計画的な森づくりを通じて森林資源の循環利用（植えて、育てて、伐って、使って、また植える）と林業の再生が促進されるよう、造林事業費の68%の公共補助金に、市が26%の上乗せ補助を実施する事業である。（そのうち16%については北海道より補助される）

＜事業実施イメージ＞カラマツ1haを植林した場合の例



※カラマツを1ha植林（事業費85万円）とすると、所有者負担は約5万円

当初計画　造林面積　70.00ha　補助金額　13,737,052円

【内訳】
○阿寒地区
造林面積　33.00ha　補助金額　5,298,148円
○音別地区
造林面積　37.00ha　補助金額　8,438,904円

(2)事業の実績と成果

本事業の実施により、伐採後の着実な植林や伐採跡地等への植林が確実に実施され、森林資源の循環利用、森林の持つ多面的機能の発揮と山村地域の振興が図られた。

事業実績　造林面積　84.92ha　補助金額　17,073,750円

【内訳】
○阿寒地区
造林面積　39.00ha　補助金額　7,619,224円
○音別地区
造林面積　45.92ha　補助金額　9,454,526円

【植林後のカラマツ苗木】

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・森林の公益的機能の維持のためには伐採跡地の着実な造林が求められているが、森林所有者の費用負担を伴うものであることから、森林所有者の理解促進や造林費用への支援策が必要な状況となっている。	課題	・森林の公益的機能の維持のためには伐採跡地の着実な造林が求められているが、森林所有者の費用負担を伴うものであることから、森林所有者の理解促進や造林費用への支援策が必要な状況となっている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・伐採後の確実な造林を促進するため、北海道とも連携し、当該事業の実施を継続し森林所有者の負担軽減を図る。	今後(令和7年度以降)の方向性	・伐採後の確実な造林を促進するため、北海道とも連携し、当該事業の実施を継続し森林所有者の負担軽減を図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	市有林収穫事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市森林経営計画
目的と概要	成熟期を迎えた釧路市有林の人工林資源を環境に配慮した形（小面積伐採）で伐採を行い、地域材利活用の取り組みに資するとともに、「植えて、育てて、伐って、使って、また植える」という、資源管理を前提とした森林資源の循環利用を確立する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	60,470	23,111	70,493
財源	一般財源	（千円）	19,238	9,275	△ 7,611
	国道支出金	（千円）	40,880	8,677	16,117
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	352	5,159	61,987

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	2,816	2,854	2,898
	職員数	（人）	0.4	0.4	0.4
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		148.3	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

森林経営計画に基づく収穫事業を実施。輪伐期（植栽から伐採までの期間）をカラマツ45年、トドマツ55年程度とし、年間30ha程度の伐採（小面積伐採）を継続的に行い、地域に地場産材を提供できる体制を確立。伐採後は森林環境保全直接支援事業により植栽・保育を行い、地域材の利活用と森林の有する公益的機能の高度発揮の両立を図る。

当初計画　市有林収穫　伐採面積　9.24ha

○釧路地区【塘路】の市有林収穫事業
- ・更新伐面積　9.24ha
- ・樹下植栽面積　9.74ha
- ・下刈面積　35.40ha
- ・森林調査一式　9.24ha
- ・作業道補修　2,500m

○阿寒地区【東栄他】の市有林収穫事業
- ・下刈面積　28.50ha

※「更新伐」とは
一度に全ての立木を伐採するのではなく、樹高の2倍程度である40m幅で「伐る」「残す」を繰り返す伐採方法。
帯状に伐採した部分には新たに造林・保育を行う。

(2)事業の実績と成果

伐採された市有林は、森林組合が買い取り森林組合から道東や北網圏の製材業者等へと卸され、建築資材等に利活用されたとともに、森林資源の維持のために植栽・保育を行うなど市有林を適切に保全することができた。

当初計画　市有林収穫　伐採面積　4.68ha

○釧路地区【塘路】の市有林収穫事業
- ・皆伐面積　4.68ha
- ・樹下植栽面積　9.74ha
- ・下刈面積　35.40ha
- ・森林調査一式　9.24ha
- ・作業道補修　2,100m

○阿寒地区【東栄他】の市有林収穫事業
- ・下刈面積　28.50ha

伐採後の釧路地区の市有林

積み上げられた木材

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・伐採したカラマツ立木は売り払いを実施するが、立木価格は市場動向等の要因により変動するため、今後も価格が安定して推移するかが課題。	課題	・伐採した立木は売り払いを実施するが、立木価格は市場動向等の要因により変動するため、今後も価格が安定して推移するかが課題。
今後(令和6年度以降)の方向性	・本事業は、地域の林業・木材産業・木材関連産業の活性化に寄与するとともに、関連して発生する森林整備事業（植栽・保育）の事業量増による雇用創出が図られるため、今後も計画的かつ継続的に事業を実施していく。また伐採する立木については、事業費に充当するため売り払いを実施する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・本事業は、地域の林業・木材産業・木材関連産業の活性化に寄与するとともに、関連して発生する森林整備事業（植栽・保育）の事業量増による雇用創出が図られるため、今後も計画的かつ継続的に事業を実施していく。また伐採する立木については、事業費に充当するため売り払いを実施する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	林業振興事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 北海道森林づくり基本計画
目的と概要	森林環境譲与税を活用し、2019年度からの森林経営管理法の施行にともなう森林経営管理制度を推進するほか、私有林の整備への助成、及び森林整備を行う林業事業体への支援を行い、市内の森林整備を促進する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	19,299	35,259	86,149
財源	一般財源	（千円）	1,392	0	535
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	17,907	35,259	85,614
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		226.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

1　私有林の整備への支援

①森林整備対策推進事業

・北海道が行う造林関係事業実施する際に、上乗せ助成を行い、森林所有者の整備費用負担を軽減する。

・実施計画
植栽・下刈・間伐等
鳥獣害防止施設等整備（シカ柵）

②私有林整備事業

・私有林における間伐や路網作設強化等への補助

・実施計画面積（間伐事業）　：30.00ha
・実施計画延長（森林作業道の改修）：3,800m

2　森林整備を行う林業事業体への支援

①林業事業体作業用具等購入支援事業

・林業事業体及び森林組合における林業就業者の作業の効率化や労働環境の整備に支援することにより、林業就業者の定着を促進するとともに林業事業体の育成を図る。

・実施計画　林業事業体作業用具等購入支援事業　19件

②高性能林業機械導入・木材加工流通施設整備支援事業

・高性能林業機械導入・木材加工流通施設整備支援事業により、森林整備を行う林業事業体の機械化の推進や、木材加工の高度化を図り、森林整備を促進する。

・実施計画　林業機械・木材加工設備導入　2件

(2)事業の実績と成果

1　私有林の整備への支援

①森林整備対策推進事業

・実施内容
植栽・下刈・間伐等　：面積659.45ha
鳥獣害防止施設等整備（シカ柵）：延長8,348m

②私有林整備事業

実施面積（間伐事業）　：44.71ha
実施延長（森林作業道の改修）：665m

2　森林整備を行う林業事業体への支援

①林業事業体作業用具等購入支援事業

・実施内容　チェーンソーの購入等　4件

②高性能林業機械導入・木材加工流通施設整備支援事業

・実施内容　林業機械導入　1件（ハーベスタ）

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・市内私有林の適切な森林整備の実施に向け、国や北海道の事業の動向を勘案しながら、私有林所有者等の意向など、ニーズに即した事業を実施していく必要がある。	課題	・市内私有林の適切な森林整備の実施に向け、国や北海道の事業の動向を勘案しながら、私有林所有者等の意向など、ニーズに即した事業を実施していく必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・私有林整備事業については、既存の国・道の事業を踏まえ、きめ細やかに対応し、かつ森林組合や森林所有者の意向を踏まえながら、効果的に実施する方法を検討する必要がある。そのほか、私有林整備を支える林業事業体や森林組合への支援を行い、市内私有林の整備を促進する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・私有林整備事業については、既存の国・道の事業を踏まえ、きめ細やかに対応し、かつ森林組合や森林所有者の意向を踏まえながら、効果的に実施する方法を検討する必要がある。そのほか、私有林整備を支える林業事業体や森林組合への支援を行い、市内私有林の整備を促進する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	音別町山菜等加工施設事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	音別地区は、管内でも有数の山菜（蕗）資源の豊富な地域であり、特産品として加工品の製造・開発の拠点として昭和63年度に当該施設を整備したが、老朽化が著しく使用に耐えない状況にあることから、施設の修繕を実施することにより蕗加工品の安定生産を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,441	6,490	0
財源	一般財源	（千円）	1,441	0	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		6,490	
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	0
	職員数	（人）	0.5	0.5	
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		41.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

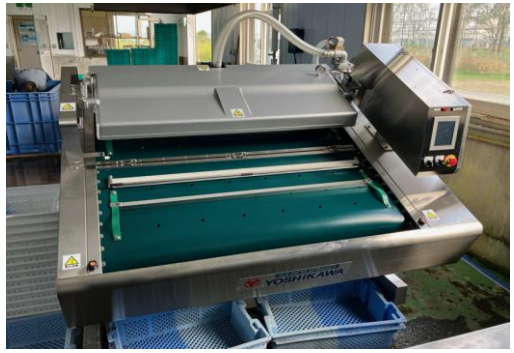
(1)年度当初計画

経年劣化等による不具合が多いことから、蕗加工品の安定生産のため真空包装機を更新する。

・真空包装機更新　7,150千円（真空不良による更新）

(2)事業の実績と成果

真空包装機を更新したことにより、蕗加工品の安定的な生産が図られた。



3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　終了
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・真空包装機の更新によりパック包装の生産性が向上し、特産品である蕗の水煮パックの安定生産が図られた。 一方で、施設は建築後35年以上が経過し老朽化が著しく、蕗加工品の安定生産と衛生面の向上を図るためには施設整備に向けた検討が必要である。
今後（令和6年度以降）の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後（令和7年度以降）の方向性	・地域の特産品である蕗加工品の安定生産を図るため、老朽化した施設の整備と衛生面の向上に向けた検討を地域が一体となって進める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	地域材利用拡大・森林整備推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部農林課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 北海道森林づくり基本計画
目的と概要	森林面積が約10万haと豊富な森林資源を有する「森林都市」であることから、利用期を迎えているこれらの森林資源を地域で積極的に利用することにより、地域産業の振興や、多面的機能を発揮する森林の整備を推進し、森林資源の循環利用を実現する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	6,214	17,427	42,274
財源	一般財源	（千円）	0	0	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	6,214	17,427	42,274

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	1,408	1,427	1,449
	職員数	（人）	0.2	0.2	0.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		111.8	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

釧路市では、林業・木材産業・建築業者・建築設計事務所・研究機関など、林業に関する様々な関係者が集い、平成22年11月に「釧路森林資源活用円卓会議」という組織を立ち上げた、

この会議において、釧路市有林をはじめとした、市内の森林資源の活用策などについて各種の検討を行ってきたところである。

この円卓会議における議論を基にして、この地域の木材の利活用を推進するために「くしろ木づなプロジェクト」と称した、各種取組を進める。

1 「川上部門」

・林業において重要な課題となっている担い手の確保に向けた取組を実施するとともに、森林施業の低コスト化のため、路網整備モデルの検討を進める。

2.「川下部門」

・地域材の需要拡大を図るため、公共建築物及び民間建築物等への活用促進に向けた取組や木製品開発の推進を実施する。

3.「普及啓発活動」

・地域材利用の推進を図るため、地域内外へ釧路産木材の普及啓発を実施する。

(2)事業の実績と成果

1 「川上部門」

〇低コストな施業の推進

・川上部会研修

「レーザー搭載ドローン測量の優位性について」を開催

2 「川下部門」

〇地域材を活用した商品開発の実施

・くしろの地域資源を活用した木製品の開発

・商品企画研究会の開催

・試作品の開発（新規3点、改良4点、継続11点）

・展示会出展によるアンケート調査

〇公共建築物及び民間建築物等への活用促進に向けた取組

・川下部会研修

「建築基準法改正に向けた木造建築物構造設計セミナー」を開催

〇公共施設の木質化

・釧路市役所本庁舎1階へ木製什器導入　等

3 「普及啓発部門」

〇地域材を活用した木製品普及活動

・小学校5年生向け冊子「釧路の森林と木材」を配布

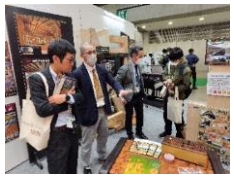
・「WOODコレクション（モクコレ）2024」へ出展

・「RISING SUN ROCK FESTIVAL 2023 in EZO」へ出展

〇木育を中心とした市民への普及啓発活動

・大人向け木育教室（こども遊学館）

・親子で楽しむ木工教室



3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・木製品の開発やイベント等により釧路産木材の認知度が高まっているなど普及に一定の効果は見られているものの、建築関連での需要拡大や路網整備を軸とした森林施業の低コスト化を進めることが課題となっている。	課題	・木製品の開発やイベント等により釧路産木材の認知度が高まっているなど普及に一定の効果は見られているものの、建築関連での需要拡大や路網整備を軸とした森林施業の低コスト化を進めることが課題となっている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・低コストで安全面が確保された効率的な森林施業を推進するため、業界内のスキルアップに向けた取組を引き続き行う。また、地域材を利用した木製品の開発や、住宅及び店舗・事業所など建築物への木材利用を促進し、森林資源の循環利用に繋がる取組を引き続き進めていく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・低コストで安全面が確保された効率的な森林施業を推進するため、業界内のスキルアップに向けた取組を引き続き行う。また、地域材を利用した木製品の開発や、住宅及び店舗・事業所など建築物への木材利用を促進し、森林資源の循環利用に繋がる取組を引き続き進めていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	増養殖漁業推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港湾整備事業に伴う漁業振興対策に関する協議書
目的と概要	近年、釧路市の水産業においてはマツカワやホッキなど多くの主要資源が著しく減少しているため、栽培漁業を推進し、資源の維持・増大を図る必要がある。本事業では、漁業経営の安定と沿岸・内水面資源の回復を目的として増養殖技術の確立や資源調査を各関係漁業協同組合を主体として実施する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	6,471	4,708	8,119
財源	一般財源	（千円）	4,971	4,708	1,419
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	1,500	0	6,700
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	3,623
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		30.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①ウニ資源増大対策事業 釧路沿岸の重要な根付資源であるウニ資源の増大のため、種苗放流や天然種苗の棲息適地への移植放流を実施する。 （ア）　人工種苗（平均20㎜サイズ）：50万粒 （イ）　深浅移植：24万粒（20トン）	①ウニ資源増大対策事業 7、10月に種苗放流を行った。 （ア）　人工種苗（平均20㎜サイズ）：10万粒
②ホッキ貝資源増大対策事業 釧路沿岸の重要な根付資源であるホッキ貝資源の増大のため、出荷対象まで成長していないホッキ貝の移植放流を行い、資源量調査を実施する。 （ア）　ホッキ貝移植放流回数 37回	②ホッキ貝資源増大対策事業 12月に資源量調査を行い、1月からホッキ稚貝の測定、移植放流を実施した。釧路海域の成貝の推定資源量は5,428トンであった。 （ア）　ホッキ貝移植放流回数：38回
③マツカワ資源増大対策事業 沿岸主要資源であるカレイ類の資源減少は著しく、漁家経営を圧迫しているため、種苗放流により、資源増大を図る。 （ア）　マツカワ放流尾数：8万尾	③マツカワ資源増大対策事業 釧路管内栽培漁業推進協議会が8月にマツカワ種苗の放流を実施した。 （ア）　マツカワ放流尾数：8万尾
④ワカサギ等養殖事業 ワカサギ等内水面資源の枯渇防止と遊漁に伴う地域観光の活性化を図るため、内水面資源の養殖事業を実施する。 （ア）　ワカサギ卵：7億粒 （イ）　ヒメマス稚魚：7万尾 （ウ）　コイ稚魚：2千尾 （エ）　ニジマス稚魚：8千尾 （オ）　アメマス稚魚：1万尾 （カ）　ヤマベ稚魚：1万尾 （キ）　イトウ稚魚：1千尾 （ク）　フナ：2千尾	④ワカサギ等養殖事業 阿寒湖周辺水域にて放流を行い、内水面主要種の養殖事業を実施。 （ア）　ワカサギ卵：5億1560万粒 （イ）　ヒメマス稚魚：5万尾 （ウ）　コイ稚魚：0尾 （エ）　ニジマス稚魚：7千尾 （オ）　アメマス稚魚：5千尾 （カ）　ヤマベ稚魚：1万8千尾 （キ）　イトウ稚魚：1千尾 （ク）　ヒメマス卵：4万9千粒 （ケ）　フナ：0尾

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・海況等により資源量は毎年変化するため、安定的な種苗等の確保が必要である。	課題	・海況等により資源量は毎年変化するため、安定的な種苗等の確保が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・漁業資源が減少しており、つくり育てる漁業の推進を図ることが重要である。漁業者及び試験研究機関等との連携を図り、今後も事業を継続していくことが必要である。	今後(令和7年度以降)の方向性	・漁業資源が減少しており、つくり育てる漁業の推進を図ることが重要である。漁業者及び試験研究機関等との連携を図り、今後も事業を継続していくことが必要である。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	シシャモふ化事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港湾整備事業に伴う漁業振興対策に関する協議書
目的と概要	釧路の水産業において、主要資源の一翼を担っているシシャモは年々資源が減少し、漁家経営の悪化を招いていることから、栽培漁業の取組を進め、資源の維持・増大を図っていく必要がある。専門機関の協力のもと増養殖技術を確立し、ふ化事業を効率的に展開することにより、シシャモ資源の回復と漁家経営の安定化を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	895	962	3,000
財源	一般財源	（千円）	895	962	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			3,000
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		6.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①シシャモふ化事業 シシャモこぎ網漁業は地元沿岸漁業の主たる漁業であることから、受精卵管理や孵化・放流を実施することで、資源の維持・増大を図る。 (ア)ふ化放流990万尾、収容卵数3億粒（庶路川ふ化場）	①シシャモふ化事業 ４月に前年度収容した受精卵の管理・稚魚の放流を行った。また、11月にシシャモ親魚の捕獲・収容を実施した。 (ア)ふ化放流990万尾、収容卵数3,110万粒（庶路川ふ化場） 収容予定卵数に達するまでの親魚の捕獲ができなかったため、収容卵数が予定数量を下回った。 選別・収容作業

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・親魚不足により収容卵数が予定より下回ったため、試験研究機関等と漁期前調査を引き続き実施して、親魚の安定的な確保を図る必要がある。	課題	・収容卵数が大不調だったた昨年と比べると増えたものの予定数を下回ったため、資源量及び遡上時期を把握する漁期前調査を試験研究機関等と引き続き実施することで、親魚確保の安定化を図る必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・シシャモ資源は減少傾向にあり、増養殖事業が重要となっているため、今後も漁業者及び試験研究機関等との連携を図り、海況等の変化に対応した親魚捕獲や放流を実施する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・シシャモ資源は減少傾向にあり、増養殖事業が重要となっているため、今後も漁業者及び試験研究機関等との連携を図り、海況等の変化に対応した親魚捕獲や放流を実施する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	沖合資源増大実験事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港湾整備事業に伴う漁業振興対策に関する協議書
目的と概要	沿岸・沖合共通魚種であるハタハタ等の種苗生産・中間育成放流などを実施し、道東沖合漁業資源の増大を図り、漁家経営の安定化を推進するとともに、底曳網漁業者の資源管理に対する意識改革を推進する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	2,400	2,400	2,400
財源	一般財源	（千円）	0	0	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	2,400	2,400	2,400
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		15.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		15.4	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①沖合資源増大対策事業
沖合資源の安定的な生産体制の確立を目指し、対象魚種の資源増大事業を実施することで、資源の増大を図る。

・ハタハタ受精卵の確保
次年度に放流する受精卵の確保
確保数：40万粒

(2)事業の実績と成果

①沖合資源増大対策事業
ハタハタ受精卵を確保し、次年度放流に向け育成した。

（ア）ハタハタ受精卵の確保、育成
確保、育成数：20万粒

（イ）その他
・ハタハタ受精卵確保先の拡充に向けての協議
・他魚種の人工授精・放流の調査研究

受精卵

海中設置

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・不漁等により種苗生産のための卵の確保が不安定なため、放流種苗を安定して確保する必要がある。	課題	・不漁等により種苗生産のための卵の確保が不安定なため、放流種苗を安定して確保する必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・漁業資源が減少しており、つくり育てる漁業の推進を図ることが重要である。漁業者及び試験研究機関等との連携を図り、今後も事業を継続していく必要がある。	今後(令和7年度以降)の方向性	・漁業資源が減少しており、つくり育てる漁業の推進を図ることが重要である。漁業者及び試験研究機関等との連携を図り、今後も事業を継続していく必要がある。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	コンブ漁場整備事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 水産基盤整備事業（農林水産省）
目的と概要	釧路東部海域に広がるコンブ漁場は、近年、流氷の接岸が無くなる等の海洋環境の変化から、コンブ漁場にヒバ類などの小型雑海藻が大量に繁茂し、コンブ漁獲量の減少により漁家経営の逼迫を招いている。このため、生産力の低下が著しい漁場において、国庫補助事業による大規模かつ効率的な雑海藻除去を行うことによりコンブ漁場の資源回復、生産力の向上を推進し、漁家経営の安定化を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	17,736	18,943	22,027
財源	一般財源	（千円）	54	53	27
	国道支出金	（千円）	8,855	9,460	11,000
	地方債	（千円）	4,400	4,700	5,500
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	4,427	4,730	5,500
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	10,560	10,704	10,868
	職員数	（人）	1.5	1.5	1.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		121.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		30.2	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①水産環境整備事業（国庫補助事業）
コンブの発生・生育を阻害する雑海藻を大型駆除機械により岩盤から除去し、コンブ漁場の機能回復を図る。

（ア）工事費　：　20,000千円
（イ）除去面積　：　40,000㎡
（ウ）施工場所　：　知人地先
（エ）施工前の雑海藻量
　雑海藻着生重量（平均）　：　7413.3g/㎡【写真1】

②雑海藻除去効果調査
雑海藻除去前と除去後の有用コンブ類や雑海藻の着生状況を調査し、コンブ資源量を把握する。
≪調査実施機関及び指導機関≫
釧路市東部漁業協同組合、釧路地区水産技術普及指導所、釧路市

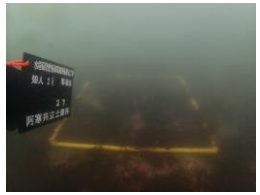
【全体計画期間】
令和4年度～令和7年度

・事業主体
　釧路市

・工事種目
　底質改善（雑海藻除去）

・計画数量及び施工場所
　全体　160,000㎡
　R4　桂恋地先　40,000㎡
　R5　知人地先　40,000㎡

【写真1】



(2)事業の実績と成果

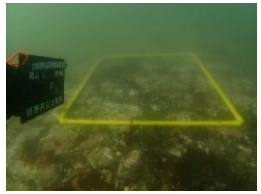
①水産環境整備事業（国庫補助事業）
雑海藻が繁茂し、荒廃しているコンブ漁場において、大型駆除機械により雑海藻除去を実施した。

（ア）工事費　：　18,920千円
（イ）除去面積　：　40,000㎡
（ウ）施工場所　：　知人地先
（エ）施工後の雑海藻量
　雑海藻着生重量　：　200g/㎡以下【写真2】
　（調査点16点）

②雑海藻除去効果調査
除去予定箇所、過年度雑海藻除去箇所において、潜水により、1㎡の海藻枠取り調査、海藻繁茂状況を観察した。
◎R3年度除去実施場所　：　三津浦地先
　2年ナガコンブ平均着生量　：　49.3本/㎡、17,240.0g/㎡
【写真3】

※ナガコンブの漁獲対象は主に2年目のものであるため、除去後2年目の漁期前に調査を実施している。

【写真2】



コンブ着床面の確保
R5年度実施箇所
（知人地先）

【写真3】

コンブ漁場の回復
R3効果調査
（三津浦地先）

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・雑海藻除去によりコンブ漁場が回復するが、時間経過とともに雑海藻が増加するため、定期的に雑海藻除去を行う必要がある。	課題	・近年の海況等を考慮し、適切な施工区や施工時期などを設定する必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・本事業は、令和4年度から令和7年度までの計画に基づき事業の継続を予定している。 ・指導所や漁協と情報共有し、漁場環境の把握に努める。	今後(令和7年度以降)の方向性	・本事業の令和8年度以降の4年計画の確保。 ・雑海藻除去によりコンブ漁場が回復するが、時間経過とともに雑海藻が増加するため、定期的に雑海藻除去を継続していく。 ・指導所や漁協と情報共有し、漁場環境の把握に努める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	雑海藻駆除事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港湾整備事業に伴う漁業振興対策に係る協議書
目的と概要	釧路東部海域に広がるコンブ漁場は、近年、流氷の接岸が無くなるなどの海洋環境の変化から、漁場の荒廃化が進んでいる。コンブ漁場の回復を図るため、国庫補助事業による雑海藻駆除を実施しているが、海域特性としてこの事業では実施できない小規模漁場が点在する。漁業経営の安定を図るためには、海域全体の資源回復が重要であることから、これらの小規模漁場の雑海藻駆除を実施し、コンブ漁場の機能回復及び資源増大を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	9,000	9,000	9,000
財源	一般財源	（千円）	6,000	6,000	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	0	0	6,000
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	3,000	3,000	3,000
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		57.7	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①雑海藻駆除事業（補助金による支援）
荒廃しているコンブ漁場において、コンブの発生・生育を阻害する雑海藻を岩盤から除去する雑海藻駆除（底質改善）を行う。本事業は、市の補助により、釧路市東部漁業協同組合が事業主体として実施する。

（ア）事　業　費　：　18,000千円

（イ）補　助　金　：　9,000千円

（ウ）駆除面積　：　60,000㎡

（エ）施工場所
興津、益浦、桂恋、三津浦地先

(2)事業の実績と成果

雑海藻が繁茂し、海域の特性上、国庫補助事業で実施できない小規模漁場において、大型駆除機械による雑海藻駆除（底質改善）を実施した。

（ア）事　業　費　：　32,503千円

（イ）補　助　金　：　9,000千円

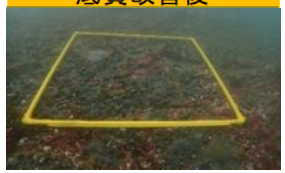
（ウ）駆除面積　：　95,000㎡

（エ）施工場所
興津、益浦、桂恋、三津浦地先

【写真1】
底質改善前

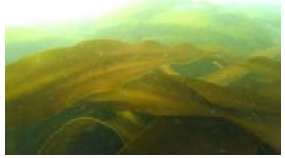
雑海藻が繁茂

【写真2】
底質改善後



コンブ着床面の確保

【写真3】
底質改善後2年



コンブ漁場の回復

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・雑海藻駆除によりコンブ漁場が回復するが、時間経過とともに雑海藻が増加するため、定期的に雑海藻駆除を行う必要がある。 ・近年の海況等を考慮し、適切な施工区や施工時期などを設定する。	課題	・雑海藻駆除によりコンブ漁場が回復するが、時間経過とともに雑海藻が増加するため、定期的に雑海藻駆除を行う必要がある。 ・近年の海況等を考慮し、適切な施工区や施工時期などを設定する。
今後(令和6年度以降)の方向性	・コンブ漁業経営の安定のため、今後も継続して事業を実施していく必要がある。 ・指導所や漁協と情報共有し、漁場環境の把握に努める。	今後(令和7年度以降)の方向性	・コンブ漁業経営の安定のため、今後も継続して事業を支援していく必要がある。 ・指導所や漁協と情報共有し、漁場環境の把握に努める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	ヒトデ駆除事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港湾整備事業に伴う漁業振興対策に関する協議書
目的と概要	従来よりカレイ刺し網やつぶ籠漁などの沿岸漁業においては、ヒトデによる資源の捕食や漁具の破損が報告されており、本事業ではヒトデ除去を行い、漁業の再活性化と資源保護を図る。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
釧路市漁業協同組合、釧路市東部漁業協同組合が事業主体となって行う駆除事業を支援する。 ①釧路市漁業協同組合 ・駆除目標数量：11トン ・対象海域：釧路沿岸海域にて実施 ②釧路市東部漁業協同組合 ・駆除目標数量：5トン ・対象海域：釧路市沿岸海域にて実施	①釧路市漁業協同組合 ・駆除量：0トン ・カレイ刺し網やつぶ籠漁などの漁場である駆除実施箇所にはヒトデが存在しなかったため。 ②釧路市東部漁業協同組合 ・駆除数量：0トン ・カレイ刺し網やつぶ籠漁などの漁場である駆除実施箇所にはヒトデが存在しなかったため。

【予算・決算データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額	（千円）	0	0	180
財源 一般財源	（千円）	0	0	180
財源 国道支出金	（千円）			
財源 地方債	（千円）			
財源 使用料・手数料	（千円）			
財源 その他特定財源	（千円）			

【参考データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考① 職員人件費	（千円）	704	714	725
参考① 職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考② 市民一人あたりの費用	（円）		0.0	
参考② 市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1)　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2)　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・漁場が広域であるため、単年度では全域を対象にできない。	課題	・漁場が広域であるため、単年度では全域を対象にできない。
今後(令和6年度以降)の方向性	・駆除実施箇所以外でのヒトデによる被害は継続して見られることから、沿岸漁業資源の維持・増大のため、今後も事業を継続し、ヒトデの増殖を抑制していく必要がある。	今後(令和7年度以降)の方向性	・令和3年9月の赤潮発生以来被害は見られていないが、沿岸漁業資源の維持・増大のため、今後も事業を継続しヒトデの増殖を抑制していく必要がある。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	漁業後継者就職支援事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	漁業後継者問題の対策として、青年漁業者の就業促進を図るため、漁業関連資格等の取得や新規漁業就業者につながる北海道立漁業研修所への就学を支援することにより、時代の漁業の担い手の確保と育成を目指す。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①釧路市漁業後継者就職支援事業（補助金による支援） ◎当初計画　131,000円 【事業概要】 漁業への就業促進を図るため、漁業技術の習得及び知識の向上を図るための研修並びに漁業を営むために必要な資格取得に関し、補助金を交付する。 ＜補助対象者＞ 市内に住所を有する50歳未満の漁業従事者又は新規漁業就業者 ＜補助の種類と補助金額＞ （1）漁業関連資格取得への支援 漁業関連資格を取得した者に対し、補助対象経費の2分の1以内の補助金を交付する。（限度額5万円） ・1級小型船舶操縦士 ・2級小型船舶操縦士 ・第2級海上特殊無線技士 ・潜水士 （2）漁業研修所への就学支援 北海道立漁業研修所の総合研修を終了した者に対し、25万円の補助金を交付する。	①釧路市漁業後継者就職支援事業（補助金による支援） ◎補助実績　：　2件　100,000円 （1）漁業関連資格取得への支援 ・1級小型船舶操縦士　1件 ・2級小型船舶操縦士　1件 （2）漁業研修所への就学支援 ・実績なし

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	50	100	133
財源	一般財源	（千円）	50	100	133
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		0.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・資格取得や研修所への就学支援のほか、漁業者の就業促進に繋がる取組みに対する支援内容の検討を漁協と協議し進めていく必要がある。	課題	・漁業就業者の減少・高齢化は全国的な問題であり、漁業への就業と定着を図ることが必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・当市の水産業が持続的に発展していくためには、次代の漁業の担い手の確保・育成が重要であるため、今後も継続的な支援が必要である。	今後(令和7年度以降)の方向性	・当市の基幹産業である漁業の次代の担い手の確保・育成を図るため、今後も継続するとともに支援の拡大を検討していく必要がある。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	漁業被害支援事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	国際バルク戦略港湾の完成により大型船が増加し、待機のため釧路港沖に錨泊する船舶による漁具被害が発生しているが、原因者の特定が難しく漁業者の負担となっていることから、漁業被害を補填することにより漁業経営の安定を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	500	500	500
財源	一般財源	（千円）	500	500	500
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		3.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

漁業被害支援事業補助金
当初計画　500，000円

【事業概要】
釧路港漁具被害対策協議会に対し、補助金を交付する。

釧路港漁具被害対策協議会の事業概要
（1）釧路港に入出港する船舶による原因不明の漁業被害に対する救済金の給付に関する事業

（2）釧路港に入出港する船舶の航行と漁業操業の安全確保を図るための啓発、情報連絡等に関する事業

○補助対象者
釧路市漁業協同組合、釧路市東部漁業協同組合の漁業者（砂つぶ籠漁業、かに籠漁業及び真かれい刺網漁業）

○補助対象漁具
砂つぶ籠漁業、かに籠漁業及び真かれい刺網漁業の漁具（ボンデン、かご）

ボンデン

か　ご

(2)事業の実績と成果

漁業被害支援事業
実績額　500，000円

◎釧路港漁具被害対策協議会の事業実績
（1）釧路港に入出港する船舶による原因不明者の漁業被害に対する救済金の給付に関する事業

25件　465，153円

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・原因者不明の漁具被害に対する他の救済制度がない。	課題	・漁具の設置場所が随時更新するため外国船舶に対して周知が難しい。
今後(令和6年度以降)の方向性	・釧路港及び釧路海域は、外来船が航行、錨泊するため、今後も継続した支援が必要である。	今後(令和7年度以降)の方向性	・漁具被害の補填により負担が軽減されるため、漁業者には今後も継続した支援が必要である。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	コンブ漁業効率化推進事業＜当初＞＜2月補正＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路市東部漁業協同組合では釧路東部沿岸部の優良な昆布藻場を活用し、大部分の漁業者がコンブ漁に着業している。ここ数年、水産物の水揚が全体的に落ちている中、コンブ漁は安定的に水揚げ量・金額がある主力漁獲物であり、漁業者の生活基盤を支えている。 重労働であるコンブ漁業では、漁業者の高齢化、後継者不足などの問題があることから、施設整備や機械化を進め、軽作業化や作業効率を改善することで、高齢者でも働ける環境や若者が着業しやすい労働環境を整備する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	6,000	6,000	3,239
財源	一般財源	（千円）	2,000	2,000	3,239
	国道支出金	（千円）	4,000	4,000	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		38.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①コンブ漁業効率化推進事業（補助金による支援）
昆布乾燥機内自動吊上げ機を導入することで高齢者や女性でも働きやすい就労環境を作り出すとともに、作業効率を改善することで安全安心な生産体制の確立を図る。

事業主体　：　釧路市東部漁業協同組合

総事業費　：　8,800千円

補助金　　：　6,000千円

導入台数　：　5台

【全体計画期間】
導入台数
令和3年度　5台（昆布乾燥機内自動吊上げ機5台）
令和4年度　5台（昆布乾燥機内自動吊上げ機5台）
令和5年度　5台（昆布乾燥機内自動吊上げ機5台）
令和6年度　5台（昆布乾燥機内自動吊上げ機3台・昆布重量選別機2台）
計20台

(2)事業の実績と成果

①コンブ漁業効率化推進事業（補助金による支援）

総事業費　：　8,800千円

補助金　　：　6,000千円

導入台数　：　5台

倉庫に設置された昆布乾燥機内自動吊上げ機

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・引き続き、漁業就業者の高齢化などに伴う人手不足の解消や就労環境の改善等効率化に向けて漁協と協議しながら支援を検討する必要がある。	課題	・引き続き、漁業就業者の高齢化などに伴う人手不足の解消や就労環境の改善等効率化に向けて漁協と協議しながら支援を検討する必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・本事業は令和5年度までの計画であり、引き続き、漁業協同組合と情報共有を行い、安全安心な生産体制を確立するための事業を検討する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・当初、本事業は令和5年度までの計画であったが、漁業協同組合の要望があり計画を延長した。引き続き、漁業協同組合と情報共有を行い、安全安心な生産体制を確立するための事業を検討する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	水産加工業活性化支援事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路市水産加工振興センターにて、水産加工製品の開発及び市内水産加工従事者の加工技術・知識向上を図るとともに、道内外における釧路産水産物の販路拡大を支援し、市内水産加工業の振興を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	247	685	354
財源	一般財源	（千円）	247	685	354
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		4.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画	（2）事業の実績と成果
①商品開発事業 地場産魚種を活用した付加価値の高い製品開発を実施する。 （試作品開発予定件数：10件）	①商品開発事業 試作品開発件数：11件 釧路で水揚げされる魚（ブリ、イワシ、ニシンなど）を原料とした加工品の開発を実施した。 【写真①】ブリのフィッシュブロック【写真②】イワシの魚醤・節
②需要開拓事業 道内外で行われる各種フェア、商談会、催事に参加し、釧路産水産加工品のPRを実施する。 （催事参加予定回数：4回）	②需要開拓事業 催事参加回数：5回 釧路水産加工振興協議会や釧路市水産業対策協議会と協力し、道内外で行った催事において釧路産水産加工品の販売を実施したほか、東京および大阪で開催された商談会の視察や出展を行い、釧路産水産加工品の商談サポートおよびPRを行った。 その他、東京都に所在する八芳園と市内水産加工事業者の交流会を開催した。 （札幌市1回、東京都2回、大阪市1回、市内：1回） 【写真③】シーフードショー大阪　【写真④】八芳園交流会
③人材育成事業 釧路水産加工振興協議会と連携し、加工技術や食品衛生等に関する講習会・研修会等を開催し、人材育成を図る。 （セミナー等開催予定回数：3回）	③人材育成事業 ・講演会開催：2回（28名参加） 省エネに関するセミナー、労働災害等に関する衛生管理研修会を開催した。 ・市民向け講習会等の開催：2回（延37名参加） 釧路産ホッケの天ぷら蒲鉾、釧路産イワシの水煮缶作りの加工体験教室及び秋鮭の飯寿司作り講習会を開催した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・商品開発に対する企業ニーズの掘り起こしを強化する必要がある。 ・販路開拓に対する企業の積極的参加が少ないため、PRの拡大に努める必要がある。	課題	・水産加工品の高付加価値化を進めることが必要である。 ・国内外販路開拓の推進が必要である。 ・企業ニーズに合わせた商品開発の実施が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・企業ニーズに沿った共同開発を行い、商品化に繋げる。 ・加工振興協議会と連携を図り、道内外で開催される商談会や催事等への企業の積極的な参加を促す。	今後(令和7年度以降)の方向性	・積極的な企業訪問でニーズの掘り起こしを行い、技術指導や共同での商品開発を通じて、市内水産加工業の高付加価値化に努める。 ・加工振興協議会と連携の上、効果的に販路開拓に繋がるための商談会参加を企画し、企業の積極的な参加を促す。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	くしろプライド釧魚（センギョ）事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	本市は、多様な水産物の水揚げがあるものの、地域住民には釧路で漁獲される魚や旬の時期があまり理解されていない状況にある。 そのため、SNSやラジオ、ホームページにより釧路で水揚げされる「水産物」や「旬の時期」、「美味しい食べ方」などの情報発信を行うとともに、生産者や小売・飲食店等と連携し、季節ごとのプラ釧の試食販売やパンフレット・チラシの配布等を行うことで、旬産旬消による魚食普及を推進する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	500	500	500
財源	一般財源	（千円）	500	500	500
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	9,856	9,990	10,143
	職員数	（人）	1.4	1.4	1.4
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		3.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画

①各種PRグッズの作成、配布及び小売店での試食イベントの開催

【画像①】

②イベントでのPR実施
プライド釧魚の域内外への定着を図るため、地元小売店や各種団体の協力のもと、イベントでのPRを実施する。

【画像②】

③SNSやラジオ、ホームページによる情報発信

【インスタグラムQRコード】

④その他
・令和5年度版　郷土読本「くしろ」への掲載
・ふるさと納税でのPR
・くしろプライド釧魚アプリケーションの設置

【画像③】

（2）事業の実績と成果

①PRグッズを作成し、小売店・飲食店、公共施設等へ配布したほか、各種イベントにおいて掲示・配布を行った。
◎配布部数
・くしろプライド釧魚食べられるお店買えるお店マップ　5,000部
◎小売店での試食イベント
・コープさっぽろ貝塚店（マダラ）
・雷さとう（マダラ）
・あいちょう星が浦店（カレイ）【画像①】

②各種イベントに参加し、プラ釧ポスターの掲示やパンフレット・チラシ等の配布を行うほか、試食販売を行い、プライド釧魚のPR並びに旬産旬消を促す魚食普及事業を実施した。
◎参加イベント
（1）トキシラズ試食会（釧路和商市場）
（2）第76回くしろ港まつり（釧路市観光国際交流センター）
【画像②】
（3）鯨肉普及キャンペーン（釧路和商市場）
（4）第20回釧路大漁どんぱく（釧路市観光国際交流センター）
（5）第14回JP01まつり出店（札幌地下歩行空間）
（6）豊洲場外マルシェ（ミチノテラス豊洲）
（7）第52回くしろ消費者まつり（釧路市観光国際交流センター）

③SNS（インスタグラム）やホームページにて、イベント案内や季節ごとのプライド釧魚を使った料理の紹介等を行った。
また、FMくしろの番組に毎月出演し、旬のプライド釧魚をPRすることにより、市民の旬産旬消を推進した。
④その他
◎令和5年度版　郷土読本「くしろ」への掲載
市内小学生3～6学年に配布される小学校社会科郷土読本「くしろ」におけるくしろプライド釧魚事業の掲載。
◎ふるさと納税でのPR
ふるさと納税サイトでプライド釧魚をPRした。
◎マリン・トポスに設置している釧路工業高等専門学校の開発した「楽しみながら釧路産水産物について学ぶことのできる」ゲーム「わくわくプラ釧フィッシング」によりプライド釧魚をPRした。【画像③】

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・域内におけるプライド釧魚の認知度の向上を図る必要がある。 ・飲食店・小売店との連携の強化をしていく必要がある。	課題	・域内におけるプライド釧魚の更なる認知度の向上を図る必要がある。 ・事業成果を図るための指標の作成が必要である。
今後（令和6年度以降）の方向性	・各種イベントにおけるプライド釧魚のPRの実施をする。 ・小売店の鮮魚売場での試食提供など、小売・飲食店と連携したPRを実施する。 ・域内に対し、プライド釧魚を浸透させる仕組み（対象魚種・旬の時期の見直し等を含む）を検討し実施につなげる。	今後（令和7年度以降）の方向性	・他都市の効果事例等を調査、検証しSNSを利用した認知度向上を図る。 ・事業成果の数値化を図るため、小売店と連携し水産物の売り上げを定期的に把握し、効果を検証する。 ・インスタのフォロワー数等で認知度を図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	赤潮対策支援事業＜9月補正＞＜12月補正＞＜2月補正＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	令和3年9月中旬以降に北海道太平洋沿岸で発生した赤潮の影響による漁業被害等の対策支援事業として、同年12月20日に成立した国の補助事業「北海道赤潮対策緊急支援事業」を活用した支援及び釧路市独自の支援を行うもの。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	14,692	11,572	0
財源	一般財源	（千円）	14,692	11,572	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		74.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

北海道赤潮対策支援事業
令和3年9月、北海道太平洋沿岸で発生した赤潮により、水産庁の補助事業「北海道赤潮対策支援事業」を活用した令和5年度事業

支援対象　釧路市東部漁業協同組合

支援金額　3,300千円 総事業費22,000千円の15%（釧路市負担）＜9月補正＞

4,950千円 総事業費33,000千円の15%（釧路市負担）＜12月補正＞

3,489千円 総事業費23,260千円の15%（釧路市負担）＜2月補正＞

支援内容　人工、天然ウニ種苗購入放流（ウニ種苗購入費を含む）＜9月補正＞

岩盤清掃
人工ウニ種苗購入放流（ウニ種苗購入費を含む）＜12月補正＞

岩盤清掃
ホッキ種苗購入放流（ホッキ種苗購入費を含む）
漁場環境状況調査（海洋生物・土壌・海水採取による赤潮生息汚染状況の調査）＜2月補正＞

(2)事業の実績と成果

北海道赤潮対策支援事業
令和3年9月、北海道太平洋沿岸で発生した赤潮により、水産庁の補助事業「北海道赤潮対策支援事業」を活用した令和5年度事業

支援対象　釧路市東部漁業協同組合

支援金額　3,199千円 総事業費21,327千円の15%（釧路市負担）＜9月補正＞

2,019千円 総事業費13,460千円の15%（釧路市負担）＜12月補正＞

6,355千円 総事業費42,367千円の15%（釧路市負担）＜2月補正＞

支援内容　人工、天然ウニ種苗購入放流（ウニ種苗購入費を含む）＜9月補正＞

岩盤清掃
人工ウニ種苗購入放流（ウニ種苗購入費を含む）＜12月補正＞

岩盤清掃
ホッキ種苗購入放流（ホッキ種苗購入費を含む）
漁場環境状況調査（海洋生物・土壌・海水採取による赤潮生息汚染状況の調査）＜2月補正＞

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・赤潮対策は、国の補助事業「北海道赤潮対策緊急支援事業」の支援が現在のところ令和5年度までであり、令和6年度以降も継続した支援が必要である。	課題	・赤潮対策は、国の補助事業「北海道赤潮対策緊急支援事業」の支援が現在のところ令和6年度までであり、令和7年度以降も継続した支援が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・赤潮対策は、国の補助事業「北海道赤潮対策緊急支援事業」が令和6年度以降も継続した際は、釧路市も支援をしていくこととなる。	今後(令和7年度以降)の方向性	・赤潮対策は、国の補助事業「北海道赤潮対策緊急支援事業」が令和7年度以降も継続した際は、釧路市も支援をしていくこととなる。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	養殖調査研究事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	目的：水産関係者、試験研究機関、経済団体などが連携し、オール釧路で養殖漁業の可能性をさぐり、事業化につなげることで、原魚不足の解消と漁業関係者の経営安定、雇用確保を図り、ひいては、地域経済の発展に寄与すること。 概要：海面・陸上養殖の研究及び実証実験、養殖漁業の先進事例調査、養殖事業の講演会の開催、養殖事業化の可能性検討

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	0	6,077	8,849
財源	一般財源	（千円）	0	6,077	8,849
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		39.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
海域環境に依存しない安定的な供給を目指し、高品質な水産物を生産するため実施する養殖の調査研究に対する補助。	海域環境に依存しない安定的な供給を目指し、高品質な水産物を生産するため実施する養殖の調査研究に対する補助。
支援対象　釧路市養殖事業調査研究協議会 補助金額　10,000千円＜当初予算＞ (1)協議会開催　5回開催	支援対象　釧路市養殖事業調査研究協議会 補助金額　6,077千円 (1)協議会開催　5回開催
(2)海面養殖　3年計画の2年目 ・魚種変更　トラウトサーモン（生食の需要が高く、道内にて種苗の確保が可能） ・投入：平均450g　5,600尾　計2.56トン ・出荷：平均2.5kg　5,600尾　計14.0トン　生残率100% ・悪条件下（台風・時化・釧路大漁どんぱく花火大会）の実験 ・直径14m×深さ4mポリエチレン製生簀1基　耐久性の検証 ・環境モニタリングシステム（水温・DO・PH測定）導入 ・イケス網改良（餌流れ防止ネット）設置	(2)海面養殖　3年計画の2年目 ・魚種変更　トラウトサーモン（生食の需要が高く、道内にて種苗の確保が可能） ・投入：平均 450g　5,600尾　計2.56トン ・出荷：平均1.42kg　2,086尾　計2.96トン　生残率37.3% ・悪条件下の実験　静穏度、釧路大漁どんぱく花火大会の影響問題なし ・直径14m×深さ4mポリエチレン製生簀1基　耐久性問題なし ・環境モニタリングシステム（水温・DO・PH測定）導入済 ・イケス網改良（餌流れ防止ネット）設置済 ・水質　問題なし ・水温　問題あり　7月下旬以降の高水温により休餌、大量斃死が発生 ・給餌　種苗投入時の馴致時間が短い等ストレスにより5、6月の給餌量が停滞
・魚卵養殖の研究 第1期：5月下旬～8月下旬　通常養殖 第2期：8月下旬～10月中旬　成熟卵販売を目的とした養殖 ・他養殖サーモンとの差別化（釧路の特性を生かす） 餌に地元産いわしミール使用 ネーミングの決定「くしろ茜サーモン」 出荷時期の差別化（国内で夏場の出荷なし）	・魚卵養殖の研究 5月25日～12月1日　通常養殖 成熟卵販売を目的とした養殖はできなかった ・他養殖サーモンとの差別化（釧路の特性を生かす） 餌に地元産いわしミール使用 ネーミングの決定「くしろ茜サーモン」 出荷時期の差別化（国内で夏場の出荷なし）
(3).陸上養殖　適地の研究 (4)先進事例調査　大阪府豊中市（バナメイエビの陸上養殖） (5))養殖事業化の可能性検討	(3).陸上養殖　適地の研究 (4)先進事例調査　大阪府豊中市（バナメイエビの陸上養殖） (5)養殖事業化の可能性検討

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果　評価：		令和5年度実施事業評価結果　評価：継続維持	
課題	・令和5年度より赤潮対策支援事業から養殖調査研究事業へ移行したため、空欄となります。	課題	・海面養殖は海洋環境に左右されるなどの外的要因がある。 ・採算性、作業の担い手、販路の確保等を検証し事業化につなげる必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・令和5年度より赤潮対策支援事業から養殖調査研究事業へ移行したため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・事業化に向け、釧路の環境に適した養殖技術を確立するため、水温等の様々な養殖に必要なデータや知見を蓄積する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	ブルーカーボン推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	コンブ養殖の実証実験を実施し、コンブを繁茂させることで脱炭素の取組みであるブルーカーボン事業を推進する。ロープに付着したコンブの胞子を海に投入してコンブを繁茂させ、漁業経営の安定化と脱炭素の取組みを推進する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	0	3,000	3,000
財源	一般財源	（千円）	0	3,000	3,000
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		19.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

釧路市漁業協同組合、釧路市東部漁業協同組合が事業主体となって行うブルーカーボン事業を支援する。

①釧路市漁業協同組合
総事業費　600,000円
補助金額　300,000円
設置箇所　釧路港東港区内

②釧路市東部漁業協同組合
総事業費　6,000,000円
補助金額　2,700,000円
設置箇所　釧路東部海域海面区画漁業権内

(2)事業の実績と成果

①釧路市漁業協同組合
総事業費　539,227円
補助金額　300,000円
設置箇所　釧路港東港区内

コンブ胞子が付着したロープ

繁茂前

②釧路市東部漁業協同組合
総事業費　5,519,855円
補助金額　2,700,000円
設置箇所　釧路東部海域海面区画漁業権内

コンブ胞子が付着したロープ

繁茂前

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　継続維持
課題	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	課題	・ブルーカーボン事業を推進するため、釧路海域で安定的にコンブを繁茂させる技術を確立する必要がある。 ・研究機関等と連携しクレジット化につなげる必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・引き続き、脱炭素の取組であるブルーカーボン事業を支援する。 ・天然のコンブ資源が減少していることから、養殖のコンブを繁茂させるため、指導所や試験研究機関等と連携を図り、漁業経営の安定化に向け支援していく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	くじらのまちづくり推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部水産課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	鯨文化の振興・発展と鯨食普及を図り「くじらのまちづくり」を進める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,450	1,514	1,774
財源	一般財源	（千円）	450	514	774
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	1,000	1,000	1,000
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		9.7	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		6.4	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①鯨文化啓発事業 釧路くじら協議会への補助金・負担金の支出	①鯨文化啓発事業 補助金：1,000千円（くじら月間イベント等開催） 負担金：450千円（学校給食への鯨肉購入代金の一部負担）
・くじら月間イベントなどの開催	◎鯨文化啓発事業実績 ・釧路くじら祭り事前告知イベントの実施（くしろ港まつり会場） （鯨カツ471食・鯨竜田揚げ604食の販売） ・鯨肉普及キャンペーンの実施 （くじら汁200食の無料提供） ・「第14回釧路くじら祭り～くしろの鯨　味めぐり～」の開催 （市内全域の飲食店32店舗で、500円（税込550円）の「くじら祭り特別メニュー」の提供をはじめ、鯨料理を食べた方を対象に、抽選で鯨関連商品を贈呈） ※応募総数（有効件数）901件 ・「釧路大漁どんぱく」への出店 （鯨カツ335食の販売）
・釧路沖での捕鯨操業への支援	・釧路沖での捕鯨操業への支援 （釧路港での水揚げ及び休養における利便性の向上）
・全国鯨フォーラムへの参加	・全国鯨フォーラムへの参加 開催自治体がないため中止
・学校給食で提供する鯨肉購入代金の一部負担	・学校給食で提供する鯨肉購入代金の一部負担 市内小中学校などで鯨肉を使用したメニューを提供 （くじら味噌ちゃんこ汁など）

鯨肉普及キャンペーン

くじら祭り

釧路大漁どんぱく

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・釧路の鯨文化の継承・存続のため、鯨肉の消費拡大に向けたイベントの実施や全国の市町村との連携強化と情報交換が必要である。	課題	・釧路の鯨文化の継承・存続のため、鯨肉の消費拡大に向けたイベントの実施や全国の市町村との連携を強化し、鯨のまち釧路の知名度を高める取り組みが必要である。 ・市民に対しての更なる鯨食普及が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・釧路沖での捕鯨操業時における安全確保の要請活動の実施。 ・鯨肉消費拡大に向けたイベントを継続して実施し、鯨の食文化の継承・存続を図る。 ・「全国鯨フォーラム」を通して全国の自治体との連携強化を図る。	今後(令和7年度以降)の方向性	・釧路沖での捕鯨操業時における安全確保の要請活動の実施。 ・鯨肉消費拡大に向けたイベントを継続して実施し、鯨の食文化の継承・存続を図る。 ・捕鯨文化・鯨食文化の普及活動を通じて、全国の自治体との連携強化を図るとともに市民に向けての鯨食普及をPRしていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	産炭地振興事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路地域産炭地振興協議会事業計画 釧路市石炭産業対策協議会事業計画
目的と概要	国等関係機関に対する要望活動や講演会の開催等を通して、石炭産業の安定・存続と、それに伴う産炭地域の振興と石炭産業の活性化を図る。また、釧路炭鉱の坑内の保安確保及び坑道開発に伴う坑内採炭に必要な設備機器の設置等に対する補助や、新たな事業に対する補助を行うことにより、石炭鉱業の安全操業、炭鉱経営の安定を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	31,469	32,636	32,835
財源	一般財源	（千円）	31,469	32,636	289
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			32,546

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	8,448	8,563	8,694
	職員数	（人）	1.2	1.2	1.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		209.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①石炭産業の振興に向けた要望活動

●海外産炭国への炭鉱技術研修事業の継続

ア. 国等関係機関に対する要望活動

イ. 北海道石炭対策連絡会議との要望活動

②石炭に関連する啓発事業の実施

石炭の重要性を広く認識してもらうため制定されたクリーン・コール・デーに合わせて、博物館との共催により、市民に石炭や国内唯一の坑内掘稼行炭鉱で行われる炭鉱技術研修等について解説する石炭基礎講座を開催するとともに、石炭エネルギーのあり方等について考えてもらうことを目的とした石炭セミナーを開催する。

③補助金の交付

・北海道と連携し、釧路炭鉱の保安確保等を促進し、坑内の保安確保及び坑道開発に必要となる設備機器の設置等に用いる釧路炭鉱保安整備事業を補助する。

・釧路炭鉱の経営の安定を図るため、新たな事業に取り組むための設備、機械装置の設置等に対して釧路炭鉱新事業取組支援事業を補助する。

(2)事業の実績と成果

①石炭産業の振興に向けた要望活動

●海外産炭国への炭鉱技術研修事業の継続

ア. 国等関係機関に対する要望活動　：　東京1回、札幌1回

イ. 北海道石炭対策連絡会議との要望活動　：東京2回

②石炭に関連する啓発事業の実施

ア. 石炭基礎講座【写真1】

日時：令和5年9月30日　参加人数：18名

内容：釧路コールマイン㈱概況説明、施設見学

イ. 石炭セミナー【写真2】

日時：令和6年2月27日　参加人数：約100名

内容：

・(一財)日本エネルギー経済研究所

研究理事 久谷 一朗 氏

『日本を取り巻くエネルギー情勢と石炭の役割』

・釧路コールマイン(株)　専務取締役　松本裕之氏

『CO2を活用した炭層メタン増進回収』

ウ. 石炭啓発資料の作成

【写真1】

【写真2】

③補助金の交付

・坑道維持資材（特殊枠、継目板等）として、20,000千円を支出

・国の坑内埋め戻し技術開発事業を効率的に行うための再現検証設備整備として、10,000千円を支出

◎成果

国等関係機関への要望活動において、国の研修事業の継続や坑内埋め戻し技術開発への支援継続について要望するなど、地域の声を届けることができた。石炭セミナーでは、多数の市民が参加し、石炭産業の必要性について周知が図られた。また、補助を行うことにより、高い保安技術の維持、経営の安定化が図られた。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・令和6年度以降の研修事業を継続していくこと。 ・エネルギーの安定供給確保に資する釧路コールマインの炭鉱技術に対する理解促進が必要。 ・釧路コールマイン㈱の高い保安技術を継続して維持する。	課題	・令和7年度以降の研修事業を継続していくこと。 ・エネルギーの安定供給確保に資する釧路コールマインの炭鉱技術に対する理解促進が必要。 ・釧路コールマイン㈱の高い保安技術を継続して維持する。
今後(令和6年度以降)の方向性	・国等関係機関への要望活動の継続。 ・セミナー等の開催により、石炭の重要性や研修事業の意義について、広く多くの市民に周知し、理解を得る。 ・補助事業の維持継続。	今後(令和7年度以降)の方向性	・国等関係機関への要望活動の継続。 ・セミナー等の開催により、石炭の重要性や研修事業の意義について、広く多くの市民に周知し、理解を得る。 ・補助事業の維持継続。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	炭鉱技術研修支援事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市石炭産業対策協議会事業計画
目的と概要	海外産炭国への炭鉱技術研修事業により、釧路コールマイン㈱が受け入れを行っている海外研修生と市民が友好な関係を築き、研修事業を円滑に進めるための交流事業を実施する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	861	1,274	1,274
財源	一般財源	（千円）	861	1,274	1,274
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	5,632	5,709	5,796
	職員数	（人）	0.8	0.8	0.8
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		8.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①市民交流プログラムの実施
海外研修生と市民による交流プログラムを、市民交流関係団体（釧路市石炭産業対策協議会、釧路国際交流の会）を通じて実施する。

「釧路市石炭産業対策協議会」とは？

釧路市、釧路市議会、釧路商工会議所、連合北海道釧根地域協議会などから構成される組織。釧路市における石炭産業の存続と新産業創造等による地域振興を図るため、石炭の安定需要確保のための方策の実施と、外国人研修生への市民交流事業等の実施を行っている。

「釧路国際交流の会」とは？

国際交流や国際協力活動等、地域の国際化を支援し、釧路地域における国際交流活動を行っている市民団体で、海外研修生との市民交流プログラムを実施している。

(2)事業の実績と成果

①市民交流プログラムの実施
・開催回数：10回
・内容：くしろ市民北海盆踊り【写真1】、交流ボウリング大会【写真2】、冬迎祭　ほか
・参加人数：154名

【写真1】

【写真2】

◎成果
海外研修生からは、「地域住民との交流プログラムについて楽しみにしていた」、「祭りに参加して日本の文化を知ることができ有意義だった」などの声があり、本事業により相互の交流が図られている。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・市民交流プログラムを通して、研修生の日本文化への理解促進を図る。また、地域住民については、研修事業の理解促進につなげる必要がある。	課題	・市民交流プログラムを通して、研修生の日本文化への理解促進を図る。また、地域住民については、研修事業の理解促進につなげる必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・市民交流関係団体で組織する市民交流事業推進会議において、事前に行事開催と日程等を調整する。 ・海外研修生から高い評価を受けており、研修事業継続の一因となっているため、事業を維持継続する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・市民交流関係団体で組織する市民交流事業推進会議において、事前に行事開催と日程等を調整する。 ・海外研修生から高い評価を受けており、研修事業継続の一因となっているため、事業を維持継続する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	食の魅力づくり推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路の一大イベントとして定着し、観光客の認知度も向上している「釧路大漁どんぱく」をはじめとしたイベント等の取り組みを支援することで、各種グルメを更なる観光客誘致のための資源とし、観光地としての魅力を向上させ、地域経済の活性化を図る。また、釧路市と姉妹都市・友好都市関係にある自治体と観光・物産交流を行い、都市間交流の発展を図るとともに、市の認知度向上を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	13,752	13,908	15,673
財源	一般財源	（千円）	12,337	12,908	15,673
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	1,415	1,000	
【参考データ】			**令和4年度（決算額）**	**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	2,112	2,141	2,174
	職員数	（人）	0.3	0.3	0.3
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		89.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①グルメ観光の推進
平成16年から開催されている「釧路大漁どんぱく」は、「農業・農村フェア・イン釧路」など、市内の様々なグルメイベントを集約しており、毎年多くの観光客の集客が見込めるイベントである。グルメを中心に組み立てた「釧路大漁どんぱく」や「農業・農村フェア・イン釧路」などイベントの実施に携わる実行委員会の運営を支援することで、各種グルメの観光資源化へとつなげ、観光地としての魅力向上と滞在型観光の推進を図る。

②姉妹都市（提携60周年）・友好都市などの観光・物産交流
姉妹都市（湯沢市・鳥取市）、友好都市(岡山市・出水市)で開催するイベント等に参加し、地場産品の販売や観光PRを行うことで、釧路市の認知度向上や都市間交流の発展を図る。
また、姉妹都市提携60周年記念事業の一環として、釧路大漁どんぱくの会場で開催される交流物産展にて、記念事業を実施する。

③海外販路拡大
海外における地場産品の販路拡大を推進し、外貨獲得による地域活性化を図るため、（一社）釧路市物産協会に対し補助金を支出する。

(2)事業の実績と成果

①グルメ観光の推進
第20回釧路大漁どんぱく
開催日：令和5年10月14日（土）～15日（日）　2日間
入場者数：約121,600人

行事催事名	参集人員
釧路すえひろはしご酒大会	1,600
釧路大漁どんぱく花火大会	50,000
農業・農村フェア・イン釧路	35,000
会場（ステージイベント・屋台）	35,000

②姉妹都市・友好都市などの観光・物産交流

開催期間	行事催事名	開催地	参集人員
令和5年9月24日(日)	第24回鳥取三十二万石お城まつり	鳥取県鳥取市	9,000
令和5年10月7日(土)～9日(月)	秋のおかやま桃太郎まつり2023	岡山県岡山市	83,000
令和5年11月18日(土)～19日(日)	第29回出水市大産業祭	鹿児島出水市	10,806
令和6年1月21日(日)	「おきかなフェア＆釧路市フェア」	徳島県松茂町	2,500
令和6年2月10日(土)～11日(日)	犬っこまつり	秋田県湯沢市	165,000

○姉妹都市60周年・友好都市交流物産展
・湯沢市：ふるまいうどんの実施、おおともチーズ工房（浜中町）と伊藤漬物本舗（湯沢市）のコラボ商品の販売
・鳥取市：鳥取市の物産品が当たる抽選会の実施
・釧路市観光大使（ヒートボイス）による60周年を記念するイメージソング制作及び楽曲披露

③海外販路拡大
○大葉高島屋の台北市天母店にて開催された「北海道美食展」へ出品。
○業務委託先の現地コーディネーターによる既存取引先2社へ特化した営業活動の継続と、現地情報の集約と共有の実施。
○一般社団法人北海道国際流通機構（HIDO）が主催した海外バイヤー招聘事業へ参画し、釧路にて商談会を開催。
・ベトナムバイヤー来釧商談会
　開催日：令和5年7月10日（月）～11日（火）
・台湾バイヤー来釧商談会
　開催日：令和5年7月28日（金）

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・「釧路大漁どんぱく」における観光客誘致に向け、イベントの充実や知名度アップにつながる取り組みの検討。 ・海外への地場産品の販路拡大については、オンラインによる商談会など、新たな手法も検討しながら進めていく必要がある。	課題	・「釧路大漁どんぱく」における観光客の更なる誘致に向け、イベントの充実や食の魅力向上及び知名度アップにつながる取り組みの検討が必要。 ・海外への販路拡大について、市場拡大に向けた取り組みなど効率的・効果的な手法の検討が必要。
今後(令和6年度以降)の方向性	・「食」をコンテンツとした誘客促進や、姉妹都市・友好都市などとの観光・物産交流による交流人口の拡大に向けた取り組みを進めていく。 ・海外への地場産品の販路拡大においても、（一社）釧路市物産協会を中心に、新規取引先の販路開拓につながる取り組みを進めていく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・「食」をコンテンツとした誘客促進、姉妹都市・友好都市などとの観光・物産交流により釧路の「食」の知名度アップ及び交流人口の拡大に向けた取り組みを進めていく。 ・海外への地場産品の販路拡大においては、（一社）釧路市物産協会を中心に、会員と連携を図りながら販路開拓につながる取り組みを進めていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	MICE産業強化推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	観光産業の一角を担うMICEは、一般観光客よりも高い消費が見込まれているため、誘致から受け入れまでの体制を官民一体となって構築することにより、MICE産業を育成し、観光消費額及び入込数の増加を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,018	650	1,284
財源	一般財源	（千円）	1,018	650	1,284
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	2,816	2,854	2,898
	職員数	（人）	0.4	0.4	0.4
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		4.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①釧路市開催に向けた誘致事業
〇関係機関とのMICE誘致活動の実施。
・国際会議等 北海道開催の推進に係る情報交換会への出席及び首都圏商談会、首都圏フォローアップ（商談を行った団体へ訪問）を行う。
・MICEパンフレット、歓迎ポスター（開催時）を製作。

②釧路市で開催される大会への支援事業
（釧路観光コンベンション協会が主体となった事業の実施）
・市内施設において開催される大会・会議を歓迎し、運営支援を実施。
〇準備時の支援
・事前視察の受入として、会場、宿泊施設の下見等の調整。
・観光パンフレット、観光DVD映像などの観光情報ツールの提供。
・アトラクション、大会後の視察や観光ツアー（アフターMICE）提案。
・印刷、旅行会社、仕出しなど地元に精通した事業者の紹介。
〇開催中の支援
・物産販売、観光案内コーナーの設置など。

③調査事業
・次年度以降開催予定の大会、イベント調査。

④コンベンション開催補助金制度
・釧路市において、MICEを誘致するため釧路市内でMICEを開催する者に対し、予算の範囲内で、コンベンション開催補助金を交付する。

(2)事業の実績と成果

①釧路市開催に向けた誘致事業
〇関係機関とのMICE誘致活動の実施
・北海道MICE誘致推進協議会実務者会議出席(9月、3月)
・東京において商談会（11月10日）・MICE関連企業訪問
・IME2024に参加（2月15日）

◎大会開催数の推移

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予定	大会数（件）	74	71	58	54	67
	参加人数（人）	25,847	26,179	23,841	15,533	47,105
実績	大会数（件）	75	18	31	57	71
	参加人数（人）	30,589	4,995	9,124	20,871	71,020

②釧路市で開催される大会への支援事業
・令和6年度に開催を予定している大会の準備として、日程の提案や会場の下見の対応をするなどの支援を行った。

MICEとは
Meeting、Incentive、Convention（Congress）、Event＆Exhibitionの略で、会議や学会、イベント、展示会、スポーツ大会等、何らかの目的を持った人々の集まりのことを言います。

③調査事業
・大会、イベント一覧を作成した。

④コンベンション開催補助金制度
・商談会や懇談会、HP等で補助金制度の周知を行い、MICEを誘致した。
・視察対応等を積極的に実施することで、補助金を活用したMICE開催誘致につなげることができた。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、大会開催数も増えているものの、コロナ前の大会開催数に戻っていないことから、釧路観光コンベンション協会が主体となり、北海道MICE誘致推進協議会とも連携を図りながら、大会や学会などの開催誘致を進めていく必要がある。 また多様な大会に対応できるよう会場の整備やホテルとの連携・協力体制も必要である。	課題	・大会数はコロナ前に近づいてきているものの、まだコロナ前の数字には届いていないため、釧路観光コンベンション協会が主体となり、北海道MICE誘致推進協議会と連携を図りながら、商談会やIMEなどを活用し大会や学会の開催誘致を進める必要がある。 ・また、多様な大会や会議を受け入れる体制を整えるため、ホテルとの連携を図る。
今後(令和6年度以降)の方向性	・MICE誘致は誘客施策の一つとして重要な役割を担っていることから、冷涼な気候・食・自然等の利点を生かした大会開催及びアフターMICE、開催補助金制度の周知をしながら、コロナ前の大会開催数に戻せるよう誘致活動を進める。	今後(令和7年度以降)の方向性	・MICE誘致は誘客施策の一つとして重要な役割を担っていることから、冷涼な気候・食・自然等の利点を生かした大会開催及びアフターMICE、開催補助金制度の周知をしながら誘致活動を進める。 ・北海道MICE誘致推進協議会及び釧路観光コンベンション協会と連携して商談会等に参加し、継続的な誘致活動を行う。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	滞在周遊促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室 産業振興部阿寒観光振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	海外からの観光客による誘客促進を図るため、欧米豪・アジアへ釧路地域の魅力を発信するとともに、観光関係団体と連携し、外国人観光客の誘客促進に向けた取組を進める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	20,936	18,803	28,155
財源	一般財源	（千円）	138	330	330
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	20,798	18,473	27,825

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		120.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

■インバウンドノベルティ事業
〇しつげん55（ゴーゴー）パスの配布
・釧路市内や阿寒温泉、摩周・川湯温泉に宿泊する台湾からの団体観光客に対し「しつげん55パス」を配布する。
※インバウンドノベルティ
・海外からの観光客に対するプレゼント

■観光振興臨時基金を活用した観光振興事業
阿寒観光協会まちづくり推進機構による阿寒湖温泉地区の観光まちづくり事業の支援
①まちなか活性化事業
・景観改善支援事業
②おもてなし事業
・温泉街循環バス「まりむ号」運行事業

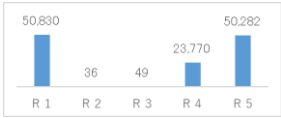
■二次交通整備事業
・釧路空港と阿寒湖温泉を結ぶ「阿寒エアポートライナー」の運行や広告等

(2)事業の実績と成果

■インバウンドノベルティ事業
〇パス配布実績

年度	配布実績
Ｒ１年度	27,600人
Ｒ２年度	3人
Ｒ３年度	0人
Ｒ４年度	9,737人
Ｒ５年度	23,796人

訪日外国人宿泊客延数推移（単位：人）
【台湾】



※R2年度実績には
「釧路FreePass」分を含む
※R4年度の11月から配布再開

【事業成果】
令和5年度からは、コロナ前の利用水準までほぼ回復した。

■観光振興臨時基金を活用した観光振興事業

①まちなか活性化事業
・景観改善支援事業：0件
②おもてなし事業
・温泉街循環バス「まりむ号」運行事業
運行期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
乗客数：920名

■二次交通整備事業
・「阿寒エアポートライナー」の運行実績
委託事業期間：令和5年7月1日～令和6年3月31日
委託事業期間中乗客数：3，792名

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・訪日客が回復傾向であることから、さらなる誘致に向けて周知が必要である。また観光振興臨時基金を活用した観光振興事業は、令和6年度に計画期間終了を迎えるが、コロナ禍による大きな影響があった。	課題	・滞在日数増加に向け、ひがし北海道エリアでの広域連携による誘客促進の取組が必要である。 ・観光振興臨時基金を活用した観光振興事業は、令和6年度に計画期間の終了を迎えるが、新型コロナの影響による税収の落ち込みによりフォレストガーデンの整備やおもてなし事業の充実化など、十分な成果が得られなかった事業もあった。また、コロナ後の状況の変化やゼロカーボン、ATなど新たな観光需要への対応が必要。
今後（令和6年度以降）の方向性	・引き続き、インバウンドの状況等を見極めながら、さらなる誘致に向けて事業を進める。また、観光振興臨時基金は、阿寒湖温泉地区の観光振興にとって貴重な財源であり、今後の方向性などの検討が必要である。	今後（令和7年度以降）の方向性	・ひがし北海道エリアでの広域連携により、台湾をはじめとするアジア地域へのプロモーションや招聘事業など、海外観光客の誘客促進を図り、滞在日数増加に向けた取組を進めていく。 ・観光振興臨時基金を活用した観光振興事業については、上記課題を解決するべく、令和7年度以降の延伸に向けて検討中。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	冬季体験型観光強化推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	釧網本線沿線及び周辺自治体と連携を図りながら、SLやタンチョウ、冬の釧路湿原等を中心とした冬季観光のPRを実施し、当圏域にとって課題である冬季観光客の誘致促進に結びつける。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	930	930	930
財源	一般財源	（千円）	930	930	930
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	2,112	2,141	2,174
	職員数	（人）	0.3	0.3	0.3
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		6.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①SLを中心とした冬季観光のPR活動の実施

・釧網本線沿線及び周辺自治体等で構成される、くしろ地域冬季観光開発協議会において、SLやタンチョウなど魅力ある観光素材を生かした、冬季の地域滞在型観光の実現を目指し、各種事業を実施する。

周辺自治体：釧路市・釧路町・標茶町・弟子屈町・鶴居村

SL運転区間：釧路－東釧路－釧路湿原－塘路－茅沼－標茶

（ア）要請活動

・JR北海道への「SL冬の湿原号」継続運行に係る要請の実施

（イ）事業活動

・ポスター、啓発資材用手提げ袋の作成

・WEBページ等を活用した広告宣伝の実施

・SLネイチャー講座の実施

・出発式の実施

・沿線自治体観光PR事業の実施

・JALとの連携事業の実施

②冬季観光客の誘致促進

・冬ならではの釧路湿原を満喫できるよう、釧路湿原の魅力を発信するガイドマップを作成し、当圏域にとって課題である冬季観光客の誘致促進を図る。

(2)事業の実績と成果

①SLを中心とした冬季観光のPR活動の実施

（ア）「SL冬の湿原号」継続運行に係る要請活動の実施

日時　令和5年7月24日（月）

場所　JR北海道本社

要請者　釧路市長・釧路町長・標茶町長・弟子屈町長
鶴居村長

（イ）事業活動

・「SL冬の湿原号」ポスター作成（600部）

・啓発資材用手提げ袋の作成（2,000枚）

・WEBページの更新（釧路・阿寒湖観光公式サイト「Superfantastic Kushiro Lake Akan」内）
→冬の体験プランの掲載ページを追加

・SNSへの広告掲載（Instagram）
期間　令和6年2月10日（土）～3月10日（日）

・「SLネイチャー講座」の実施（34回）

・出発式の実施
日時　令和6年1月20日（土）
場所　JR釧路駅2・3番ホーム

・沿線自治体観光PR事業の実施
日時　令和6年2月5日（月）～9日（金）
内容　SLに乗車し、パンフレットやノベルティの配布を行い地域のPRを実施

・JALとの連携事業の実施
日時　令和6年3月20日（水）
内容　釧路駅及び標茶駅にて乗客に対し、歓迎対応やパンフレット・ノベルティの配布を行い、地域のPRを実施

SL運行実績

年度	R1	R2	R3	R4	R5
運行日数	22日	20日	30日	32日	34日
乗車人数	9,483人	7,123人	6,402人	13,553人	13,545人
平均／日	431人	356人	213人	423人	398人

②冬季観光客の誘致促進

・ガイドマップの作成（6,500部）

※釧路観光コンベンション協会への負担金支出

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・令和4年度は新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和により、「SL冬の湿原号」の乗客数が大幅に増加したものの、時期によっては、座席予約が困難等、需要と供給の不均衡が見られた。 ・冬季間における滞在型観光の充実が求められること。	課題	・国内で唯一厳冬期に運行している「SL冬の湿原号」については、冬の観光コンテンツとして人気を維持している状況であるものの、昨年同様、乗車率が高いことから座席の予約が困難となっており、需要に供給が追い付いていない状況である。
今後（令和6年度以降）の方向性	・「SL冬の湿原号」の運行継続や運行日数の増等を要望しながら、より多くの需要に応えられる運行となるようJR北海道と協議していく。 ・閑散期となる冬季の滞在促進のため、釧路観光コンベンション協会との連携により、市街地を起点とした体験メニューづくりに向けた取り組みを進める。	今後（令和7年度以降）の方向性	・昨年に引き続き、「SL冬の湿原号」の運行継続や運行日数の増等を要望し、より多くの需要に応えられる運行となるようJR北海道との協議を進めていく。 また、SL・タンチョウ・冬季アクティビティ等の観光資源を組み合わせながら、全国的に効果のあるPRを実施し、国内外に向けた観光客の誘致促進を図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	アドベンチャートラベル推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室 産業振興部阿寒観光振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	アドベンチャーツーリズム（以下AT）旅行者の欧米豪市場からの誘客促進のため、釧路、阿寒、摩周湖の各DMO・DMCと連携し、地域におけるAT推進体制強化を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	57,871	69,240	50,966
財源	一般財源	（千円）	36,715	52,831	50,966
	国道支出金	（千円）	17,156	16,409	0
	地方債	（千円）	0	0	0
	使用料・手数料	（千円）	0	0	0
	その他特定財源	（千円）	4,000	0	0

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	11,264	12,845	14,490
	職員数	（人）	1.6	1.8	2.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		444.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

〇ATWS2023北海道への参加
北海道・札幌市で行われるATWS2023北海道実行委員会に参加。
ATWS2023では、各国旅行会社、メディア、政府観光局等のAT関係者との商談会及びネットワーキングを図る。※2022年大会は約60ヵ国800人が参加
その他のプログラムとして、AT体験ツアー、各種講演、ワークショップ等が実施される。

〇ポストサミットアドベンチャー（Post-SA）の実施
ATWSの会期後に海外有力ATメディアを釧路市（釧路市街地エリア、阿寒湖温泉エリア）に招請したツアーを催行し、地域の魅力を体験、発信していただくことにより、ATディスティネーションとしての認知度向上及び当地域のATツアー実践経験の向上を図る。

〇AT推進体制及びマーケティングの強化
釧路観光コンベンション協会（釧路DMO）及び阿寒観光協会まちづくり推進機構（阿寒DMO）が将来的にツアーコーディネーターの役割を担うべく、必要なノウハウやスキルを有する専門人材を配置し、DMO職員や地域おこし協力隊員といった人材の育成を進める。また、様々な媒体での情報発信や海外バイヤー等招請事業の実施など、近隣地域と連携した施策を実施する。これら事業の推進によりAT旅行客の増加に伴う地域における旅行消費額の増加を狙う。

ATWS2023 開会式の様子

Post-SA 雌阿寒岳トレッキングの様子

(2)事業の実績と成果

◎ATWS2023北海道への参加
釧路、阿寒、摩周湖の各DMOとDMCが連携し商談に参加。
日程：令和5年9月11日～14日　参加人数：64ヵ国773人
海外バイヤー等との商談：延べ130社

◎Post-SAの実施
欧米豪より海外有力ATメディアを招請。
雌阿寒岳トレッキングや釧路湿原散策など、当地域の魅力を体験し、SNS等で多くの情報発信をしていただくとともに、海外AT旅行者目線での様々な意見をいただいた。
日程：令和5年9月15日～18日（3泊4日）　参加者：7ヵ国8名
雑誌・SNS等での情報発信件数：119件（令和5年12月時点）

◎AT推進体制及びマーケティングの強化
【AT専門人材の派遣及び配置】
釧路市街地エリアに2名派遣、阿寒湖温泉エリアに2名配置。
ATツアーの造成や、ATWSをはじめとする商談会等によるビジネスネットワーク構築、地域おこし協力隊員等の人材育成を実施。
【地域おこし協力隊員配置】
釧路市街地エリア、阿寒湖温泉エリアにそれぞれ2名配置。
Post-SAやFAM等において、スルーガイドのサポートとして参加者へ地域の魅力の説明や、 語学力を活かした海外ATバイヤーとの商談、地域事業者とのネットワーク構築、SNSなどを用いた海外AT旅行社に向けた情報発信等を実施。
【AT推進基盤事業】
ATで稼ぐ為に必要なスキルを習得する「ATエキスパート講座」を実施。令和6年11月に計4日間開催し、延べ12人が受講。
観光関係者と地域行政等を対象にATへの理解や取組意欲を高める「AT特別セミナー」を実施。令和6年12月に開催し、22人が受講。
【海外バイヤー等招請事業】
ATWS2023で構築したネットワークを活用し、海外ATメディア及びインバウンド向け国内ランドオペレーターを招請したツアーを実施。阿寒湖上スノーシューや、阿寒国際ツルセンター「グルス」でのタンチョウ観察など、地域のATを体験するとともに、今後のATツアー造成及び販売に係る意見交換などを実施。
日程：令和6年1月26日～31日（4泊5日）　参加者：4ヵ国　4社5名
【ATプロモーション事業】
航空会社2社と連携して実施した情報発信事業により、幅広いターゲットにATの魅力を訴求することができ、誘客促進に繋がった。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・地域の認知度向上や海外AT関係者とのネットワーク、さらに地域における推進体制の整備が十分とはいえない。	課題	・海外向けATコンテンツの情報発信と受入体制の整備が課題となっている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・海外AT関係者とのネットワーク強化や、海外AT関係者を対象としたプロモーションを引き続き実施するとともに、ATを地域に根付かせるためのAT専門人材の配置などによる地域の受入体制整備を推進する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・海外AT関係者とのネットワーク強化や、プロモーションを継続しながら、認知度向上に向けた取り組みを推進するとともに、ATを推進するための専門人材やガイドを確保・育成し、地域の受入体制整備を推進する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	道東道利用促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	交流人口増を地域の活性化に繋げるために、観光客数の堅調な伸びを維持し「道東道延伸効果」の持続に向け、くしろ地域の魅力を発信するプロモーション活動をオールくしろで実施する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,243	1,244	1,986
財源	一般財源	（千円）	1,243	1,244	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			1,986
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	2,112	2,141	2,174
	職員数	（人）	0.3	0.3	0.3
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		8.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

管内各市町村で構成される「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」において、交流人口増を地域の活性化に繋げるために、「道東道延伸効果」の持続に向け、取組を強化する。
ドライブ観光者をターゲットにした下記メディアプロモーションを実施する。

(1)オールくしろ魅力発信キャンペーンの展開

(2)道東道開通PRインフラツアーの実施

(3)JAFと連携した情報発信

※「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」に負担金を支出。

(2)事業の実績と成果

①事業実績
(1)オールくしろ魅力発信キャンペーンの展開
・メディアを活用した情報発信
（北海道新聞や雑誌「HO」に掲載）
・特設WEBサイトの開設による情報発信
アクセス数　15，946回　※R4年度　29，359回

(2)道東道開通PRインフラツアーの実施
・道東道工事現場と観光地等を巡る釧路発着ツアーの実施
参加者：46名（応募者数：53名）
※R4年度　参加者数：28名（応募者数：48名）

(3)JAFと連携した情報発信
・JAFドライブスタンプラリーの実施
（令和5年7月1日～9月30日）
スタンプラリー参加者数：542名　※R4年度　455名
・JAF　PLUS掲載（2023年夏号）

②成果
◎道東道の利用促進に向けた取り組みの成果として、道内入込客数の増加につながったと受け止めている。

	R3年度	R4年度	R5年度
入込客総数	2,755,592	3,809,978	4,182,313
道内入込客数	2,072,137	2,737,792	2,891,487
道外入込客数	683,455	1,072,186	1,290,826
道内客の割合	75%	72%	69%
道外客の割合	25%	28%	31%

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・道東道を利用したドライブ観光の情報発信強化が必要となる。	課題	・道東道を利用したドライブ観光の促進と情報発信の強化が必要。
今後(令和6年度以降)の方向性	・道東道延伸を契機とした「くしろ地域の魅力発信」の取組を実施してきた中で、令和6年度秋にいよいよ道東道（本別-釧路間）が全線開通することに伴い、これまでの成果や課題をしっかりと踏まえ、アフターコロナにおけるドライブ観光の取り組み強化とともに、くしろ地域の魅力を最大限に発信し、地域全体で誘客を行っていく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・阿寒IC～釧路西IC間の開通を契機とし、道東道の別保以東への延伸に向けて管内町村との連携により、くしろ地域の魅力を発信しながら、引き続き誘客促進を進めていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	ひがし北海道空港連携誘致事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	ひがし北海道エリアにおける海外からの誘客を図るため、釧路・帯広・網走市が連携し、誘客促進施策と国際線就航の実現に向けた取り組みを進める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,004	1,491	1,500
財源	一般財源	（千円）	1,004	1,491	1,500
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	4,928	4,995	5,072
	職員数	（人）	0.7	0.7	0.7
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		9.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画

●情報発信事業
（1）台湾在住の個人旅行者向けJR・道東3市特設WEBサイト、Facebookを活用した情報発信及び現地プロモーションの実施（JR北海道連携）
（2）台湾及びシンガポール向けデジタル・現地プロモーションの実施（ひがし北海道DMO連携）
（3）海外旅行会社向けひがし北海道デジタルパンフレット制作

（2）事業の実績と成果

●情報発信事業
（1）台湾在住の個人旅行者向けJR・道東3市特設WEBサイト、Facebookを活用した情報発信及び現地プロモーションの実施（JR北海道連携）
・JR北海道が運営する台湾向けFacebook「REAL北海道」を活用した情報発信
・台北国際旅行博（開催:11/3～6）に「JR北海道、帯広市、網走市、釧路市」合同でブース出展し、動画発信・ステージイベント等を通じたひがし北海道プロモーションを実施。

台北旅行博出展（JR連携）

・台北で開催の「日本観光振興協会主催商談会（11/2）」に参加し、台湾旅行会社へのセールスを実施（商談数8社）

（2）台湾及びシンガポール向けデジタル・現地プロモーションの実施（ひがし北海道DMO連携）
①台湾プロモーション
・日本航空と連携し、羽田空港から道東の空港へ乗継による旅行を訴求するため、台北国際旅行博（開催:11/3～6）にブース出展し、「ひがし北海道PR」・「情報発信」・「アンケート」を実施
②シンガポールプロモーション
・シンガポールにて「JNTOひがし北海道ファンの集いセミナー」にて、ひがし北海道プロモーションを実施

台北旅行博博出展（JAL連携）

シンガポールセミナー

（3）海外旅行会社向けひがし北海道デジタルパンフレット制作
・訪日外国人観光客誘致を目的に、「ひがし北海道観光キャンペーン協議会」で作成しているひがし北海道観光パンフレットを台湾版デジタルパンフレットに内容校正し、台北国際旅行博（ITF）での配布等を実施

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・国の水際対策緩和や国際線の再開により、外国人旅行者数は回復傾向にあるものの未だコロナ禍前の水準に届かないことから、ひがし北海道の魅力ある観光情報を継続的に発信し、アフターコロナの旅行需要喚起及びひがし北海道旅行を訴求する必要がある。	課題	・個人旅行化（FIT化）を受けた情報発信とセールスの強化が必要である。 ・チャーター便運航要請を継続して実施するとともに、国内線乗継便やジャパン・レール・パス（JR）を利用する旅行者を見据えたひがし北海道周遊観光の定着化を図る継続的な取り組みが必要である。
今後（令和6年度以降）の方向性	・北海道エアポートと連携した国際チャーター便の誘致や、ひがし北海道地域というスケールメリットを活かした各種プロモーションなど、誘客促進施策と国際線就航の実現に向けた取り組みを帯広市・網走市と連携しひがし北海道一体となって進める。	今後（令和7年度以降）の方向性	・ひがし北海道地域が一体となったPRを継続的に実施するほか、現地メディアやプロモーションを通じ、個人旅行客に訴求する観光資源の情報発信を促進する。 ・これまでのプロモーションや招聘事業等により構築してきた人脈を活用し、チャーター便誘致・誘客の取り組みにつなげていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	水のカムイ観光圏協議会負担金＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 観光圏整備法（国土交通省観光庁）
目的と概要	釧路市と弟子屈町の行政や観光団体など37団体で構成する釧路湿原・阿寒・摩周観光圏（※1）において「2泊3日以上滞在する魅力あふれる自然共生型滞在観光地づくり」などを目的に、釧路・阿寒・弟子屈のDMO等の連携による観光圏プラットフォーム（※2）を構築し、広域での観光地域づくり事業を連携して推進を図る。市は負担金を支出。 （※1）平成27年4月10日に国より「水のカムイ観光圏」として認定 （※2）観光圏プラットフォーム～観光圏の一元的な窓口機能を担う組織

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	5,784	6,638	5,275
財源	一般財源	（千円）	5,784	6,638	5,275
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	3,623
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		42.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画	（2）事業の実績と成果
①負担金を財源とした観光圏整備事業 ○広域的な滞在促進に資するコンテンツの磨き上げ ・ブランドコンセプト「水のカムイと出会える旅へ」を体感できる滞在コンテンツを造成する。	①負担金を財源とした観光圏整備事業 ○広域的な滞在促進に資するコンテンツの磨き上げ ・滞在コンテンツ造成に向けたモニターツアーを実施した。 期間：令和6年1月29日（月）～2月1日（木） 招聘者：ATWS2023にてPSA実施の国内旅行会社2社2名
○移動の利便性の向上（アクセス整備） ・阿寒バス㈱「釧路知床号」「知床釧路号」の定期観光バスの運行区間のうち、阿寒湖及び道の駅摩周温泉の乗降部分を当観光圏におけるネットワークバスと見なした、運行期間における広告プロモーション等への支援	○移動の利便性の向上（アクセス整備） ・阿寒バス㈱「釧路知床号」「知床釧路号」の運行期間における広告プロモーション等への支援を行った。 ◇釧路知床号 7月15日～10月21日／2月1日～3月9日 ◇知床釧路号 7月16日～10月22日／2月2日～3月10日
○プロモーション事業 ・アフターコロナ及びATWS2023を見据えたJNTOの活用による情報発信	○プロモーション事業 ・JNTOを活用したYouTube動画広告を実施した。 動画再生数：161,755回　クリック数：306回 ・海外向けSNS広告を実施した。 投稿閲覧者数：292,858回　クリック、いいね等：231回
○来訪者調査 ・マーケティング調査の実施 ・滞在プログラム満足度調査の実施	○来訪者調査 【期間】　夏期：8月～9月　冬期：1月 【回答票数】　夏期：日本人614票　外国人94票 冬期：日本人147票　外国人22票
○観光圏ホームページ等維持管理 ・ポータルサイトや無料Wi-Fi等情報インフラの管理・改善	○観光圏ホームページ等維持管理 ・ポータルサイトなどの情報インフラなどを外国人目線に立って管理及び改善並びにWi-Fiの維持管理を行った。
○住民が一体となった観光地域づくりの推進事業 ・観光地域づくりセミナーの開催	○住民が一体となった観光地域づくりの推進事業 ・「アドベンチャートラベルが拓く観光地域づくりへの道」としてセミナーを開催した。 日時：1月31日　会場：ANAクラウンプラザホテル釧路 参加者数：会場48名　オンライン20名
○観光圏間の連携の推進 ・全国観光圏推進協議会事業への参画など	○観光圏間の連携の推進 ・全国観光圏推進協議会事業へ参画した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・第2期水のカムイ観光圏整備計画（R2～R6年度）で示した取組の実現に向け事業実施を継続するが、アフターコロナを迎え急速に回復しつつある訪日観光需要の当圏域への獲得に向け、より積極的な情報発信等が必要。	課題	・水のカムイ観光圏によるATWS2023への参加を通じて得られた成果と課題を踏まえ、訪日観光需要の当圏域への獲得に向け、AT顧客層に選ばれるための地域ブランディングやマーケティング施策の強化が必要。
今後（令和6年度以降）の方向性	・DMO、観光地域づくりマネージャー等を中核に、多様な事業者と連携し、ひがし北海道エリアの拠点としての広域連携による観光地域づくりを進めるとともに、令和6年度が今次計画期間の最終年次となることから、新たな整備計画策定に向けた関係機関との協議を進める。	今後（令和7年度以降）の方向性	・令和6年度に策定予定である次期整備計画に基づき、DMOや観光地域づくりマネージャー等を中核とする多様な事業者と連携し、これまでの取り組みを踏まえ、滞在観光の促進とともに持続可能な観光地域づくりを進める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	国内観光客誘致事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	国内観光客の継続的・安定的な誘致を図るため、釧路地域の認知度向上を高めるとともに、観光関係団体等と連携したプロモーション活動の実施など、国内観光客の誘客促進に向けた取り組みを進める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	2,728	2,501	2,564
財源	一般財源	（千円）	1,965	2,501	2,564
	国道支出金	（千円）	350		
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	413		

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	5,632	5,709	5,796
	職員数	（人）	0.8	0.8	0.8
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		16.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画

①プロモーション活動への支援
釧路観光コンベンション協会が実施する、旅行会社商品造成担当へのセールスや、北海道観光振興機構主催の北海道観光プロモーションへの参加などによる国内観光客誘致活動に対する支援を行う。

②北海道くしろ地域と東京特別区による関係醸成プロジェクト
北海道釧路地域・東京都特別区交流推進協議会において、釧路地域と東京都特別区の経済交流による交流人口拡大、販路拡大、地域活性化、首都圏からの誘致促進を図るため各種事業を実施。

③修学旅行誘致事業支援
釧路観光コンベンション協会が実施する、釧路ならではの体験・学習メニューをまとめた修学旅行のガイドブックの作成や、旅行エージェントや道内の小中学校及び全国の高校への誘致活動に対する支援を行う。

（2）事業の実績と成果

①プロモーション活動への支援
〇国内プロモーション
・阪急交通社北海道支部商談会（春：4月20日）（秋：9月6日）
・ひがし北海道DMO商談会（札幌：4月24日）（東京：4月26日）
【内容】各地域旅行会社・メディアとの商談を実施
（札幌：14社、東京：21社）
・北海道観光振興機構主催「北海道情報交換会in名古屋」（9月8日）
・ふるさと全国県人会まつり2023北海道プロモーション参加
（9月9日～10日）
・航空会社表敬訪問及び要望活動（10月16日～19日）
【内容】航空会社への要望及びトップセールスを実施
（市・商工会議所・北海道エアポート・釧路観光コンベンション協会同行）
・北海道観光振興機構主催「北海道観光情報交換会in大阪」（10月26日）
・阪急交通社長期滞在商品説明会（2月16日～20日）

②北海道くしろ地域と東京特別区による関係醸成プロジェクト
1.くしろ地域の魅力発信【くしろ地域→荒川区】
〇日本旅行WEBサイトに特集ページを掲載
・掲載期間：8月18日～3月15日
〇北海道くしろのふれあい祭りの開催
・開催日時：10月28日・29日 10:00～17:00
・開催場所：荒川区日暮里駅前イベント広場
・内容：くしろ地域の特産品販売、観光PR等
2.くしろ地域の魅力体験【荒川区→くしろ地域】
〇くしろ地域魅力体験交流ツアーの実施
・実施時期：10月7日～9日 東京発着2泊3日
・参加者：荒川区の小学生と保護者6組12名、
弟子屈町・白糠町の小学生と保護者6組12名
・訪問先：弟子屈町、白糠町（2班に分けて1市町村を訪問）
・内容：アクティビティ及び文化等の体験、地元の子ども達
との交流

③修学旅行誘致事業支援
・修学旅行ガイドブックを学校360部、旅行会社84社に送付
・道内セールスを実施（札幌・旭川、オホーツク圏）
・北海道教育旅行説明会商談会を実施

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
小中学校	学校数	52校	38校	23校
	人数	4,316人	2,321人	1,342人
高等学校	学校数	20校	36校	29校
	人数	2,346人	5,874人	4,123人
専門学校等	学校数	4校	3校	3校
	人数	170人	46人	155人

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・新型コロナウイルス感染拡大の影響による入国制限などは緩和されたものの、インバウンドについてはコロナ禍以前と比べるとまだ回復途上となっている。今後は閑散期を始め更なる誘客促進や滞在促進に向けた取り組みが必要である。	課題	・新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5月から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行し、再び国内観光需要が高まり、個人旅行客を中心に回復傾向にあるが、コロナ禍前の状況には十分回復していない。今後も個人向け、団体向けなどの魅力的なコンテンツを拡充し、誘客促進及び滞在促進に繋がる各種取組を継続していく必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・観光協会をはじめとする関係団体や周辺自治体との連携を引き続き図るとともに、道内外の様々なイベント時において釧路エリアの多様な魅力を情報発信し、国内観光客のさらなる誘客促進を図る。	今後(令和7年度以降)の方向性	・引き続き、観光協会をはじめとする関係団体や周辺自治体との連携を引き続き図るとともに、道内外の様々なイベント時において釧路エリアの多様な魅力を情報発信し、国内観光客のさらなる誘客促進を図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	海外観光客誘致事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室 産業振興部阿寒観光振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	海外からの誘客促進を図るため、アジア地域を中心に地域の魅力を発信するとともに、観光関係団体と連携し、外国人観光客の誘客促進に向けた取り組みを進める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	737	1,033	2,831
財源	一般財源	（千円）	737	1,033	2,831
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	5,632	5,709	5,796
	職員数	（人）	0.8	0.8	0.8
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		6.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①広域観光周遊促進事業

・北海道のリピーターをターゲットとした、釧路根室地域における「新たな旅のスタイル」に対応した誘客促進事業を実施。
　〇周遊パスおよび周遊モデルコースの造成
　〇Googleマップ掲載情報の充実
　〇多言語パンフレットの作成
　〇WEBページの作成
　〇旅行会社招聘と商談

②台湾旅行会社プロモーション事業

　地域DMOである阿寒観光協会まちづくり推進機構（阿寒DMO）が地域の担い手として、阿寒湖温泉地区の観光事業者と連携して、台湾旅行会社を訪問し、当地区の観光商品のセールスを行い、台湾発旅行商品の造成や送客強化を図る。

(2)事業の実績と成果

①広域観光周遊促進事業

〇周遊パスおよび周遊モデルコースの造成
ひがし北海道の観光施設や自然体験メニュー等が利用できる非接触型電子パスポート造成と釧路空港と中標津空港を起点とした周遊モデルコースを造成した。

〇Googleマップ掲載情報の充実
・Googleマップへの掲載

〇多言語パンフレットの作成
・QRコードによりGoogleマップ掲載の各コンテンツ 情報へ誘導する旅行中の行程検討に活用可能な多言語パンフレットを作成した。

〇旅行会社招聘と商談
・日時：令和6年2月5日～6日

②台湾旅行会社プロモーション事業
台北ITF2023出展　令和5年11月3日～6日
内容　台北市内旅行会社7社への合同セールス
　　台北市内旅行会社28社招待懇親会

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・入国規制が緩和され少しづつ訪日客が回復傾向にある中、これら観光客をいかにひがし北海道エリアに呼び込むかが鍵になる。今後は誘客促進のため、積極的な情報発信が求められている。	課題	・コロナ禍後、回復傾向にある訪日客をひがし北海道エリアに呼び込むため、積極的な情報発信が求められている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・訪日客の受け入れが徐々に戻りつつあることから、今まで以上に観光関係団体と連携を図りながら、コロナ禍前にもひがし北海道エリアで多くの割合を占めていた台湾をはじめとするアジア地域を対象に、情報発信を一層充実させ、訪日客のひがし北海道エリア周遊促進につながる取り組みを進めていく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・台湾をはじめとするアジア地域を対象に、観光関係団体と連携を図りながら情報発信を一層充実させ、訪日客のひがし北海道エリア周遊促進につながる取り組みを進めていく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	観光情報発信提供事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路地域の観光情報発信や認知度向上に努め、釧路市への誘客促進を図ることを目的とする。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	16,971	5,914	4,895
財源	一般財源	（千円）	5,059	5,914	2,798
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	11,912		2,097

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	12,672	12,845	13,041
	職員数	（人）	1.8	1.8	1.8
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		37.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①クルーズ観光客観光情報提供事業
　クルーズ客船で釧路を訪れる観光客に対して、釧路市内の観光情報の発信やおもてなしの充実、受け入れ体制の強化を図るため、インフォメーション及び国際交流サロンを開設する。

②釧路・阿寒湖観光公式WEBサイトの管理運営
　釧路・阿寒湖観光公式サイト「SUPER FANTASTIC Kushiro Lake Akan」の管理・運営と、国内外に向けた情報発信の強化を図る。

③観光リーフレット作成
　国内物産展や海外プロモーション等での配布を目的とした、主要観光スポットや交通等の情報を集約したマップやチラシを多言語で作成し、釧路地域の情報発信を図る。

④デジタルプロモーション強化事業
　台湾に対してデジタル広告を配信し、誘客促進へつなげるために情報発信を展開する。

(2)事業の実績と成果

①クルーズ観光客観光情報提供事業
　クルーズ船入港時にインフォメーションを設置して観光案内を実施、外国船入港時には着物試着や折鶴体験など国際交流サロン開設。
◎R5年度：10隻12回（日本船：1隻1回、外国船9隻11回）
　クルーズ観光マップ制作　5,000部

②釧路・阿寒湖観光公式WEBサイトの管理運営
　季節に応じた特集記事の作成や旬の観光情報を発信した。
◎R5年度：約235万ページビュー（R4年度：約311万）

＜釧路・阿寒湖観光公式サイト＞

③観光リーフレット作成
　国内物産展やJNTO海外事務所など国内外で配布し、釧路地域の情報発信を図ることができた。
◎EAST　HOKKAIDO　KUSHIRO（日本語）、四カ国語パンフレットを作成。

④デジタルプロモーション強化事業
　台湾の訪日旅行関心層に向けてSNS（Facebook/Instagram）や訪日旅行情報サイト等から釧路ページへ誘導するターゲット型のデジタル広告を配信し、観光情報発信を行った。
◎広告配信によるページ閲覧総数：29,511ページビュー
　（広告バナー掲出：4,212,636回）

＜広告バナー例＞

＜釧路・阿寒湖観光公式サイト＞
台湾ページ（中文繁体）

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・アフターコロナとなり旅行需要が高まる中、観光客のニーズや目的に応じた効果的な情報発信の手法・発信媒体を検討し、情報発信を強化していく必要がある。	課題	・観光客のニーズや目的、ターゲット（国別、年代、興味志向など）に応じた情報発信の効果的な手法・発信媒体を検討するとともに、国内外に向けた情報発信の強化が求められている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・旅行形態の変化などに対応した観光客に関する動向を把握するとともに、マーケティング分析に基づく情報発信を実施し、誘客促進に繋げる取り組みを進める。	今後(令和7年度以降)の方向性	・国内外に向けたWEB・SNS等の活用や、JNTO（日本政府観光局）と連携し海外に向けた情報発信の強化に取り組む。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	観光施策推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第二期釧路市観光振興ビジョン 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路市観光振興ビジョンは、目標指標を「経済波及効果」とする観光指針であり、経済波及効果調査の結果や観光情勢等の変化に即した実効性のある観光ビジョンにすることを目的に、現行の「第二期観光振興ビジョン（H29-R8）」の計画中期にあたる令和4年度・5年度の2カ年において中間見直しを行う。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	2,416	10,525	269
財源	一般財源	（千円）	2,416	10,525	269
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	14,272	7,245
	職員数	（人）	1.0	2.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		67.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①第二期釧路市観光振興ビジョン中間見直し（令和5年度）
第二期釧路市観光振興ビジョンでは計画期間（H29-R8）を3期（前期・中期・後期）に区切って進捗状況の確認、検証・評価を行い、計画見直しを行うこととしている。
計画中期においては、ビジョンの検証・評価に加え、社会経済環境の変化や旅行・観光の動向を勘案して、計画後期に向けた「具体的な戦略や観光施策の方向性」を定めることとしていた。
特に、観光を取り巻く環境は新型コロナウイルス感染症の影響により、計画策定当初から大きく変容しており、先行きが不透明な状況が見込まれることから、2カ年にわたり中間見直しを行った。

【令和4年度】
・ビジョンに基づく観光施策の実施検証
・計画策定時以降における観光情勢等の変化の分析
・コロナ禍による影響把握
・新たな課題の抽出等の基礎調査及び分析等

【令和5年度】
・ビジョンの検証・分析に基づく、具体的な観光戦略の策定
・ビジョン中間見直し計画策定に必要なデータ収集・分析等

②令和5年度釧路市経済波及効果調査
第二期釧路市観光振興ビジョンでは、計画期間内に経済波及効果を基準年次（平成21年度調査211億円）の2倍程度（約500億円）に高めていくことを目標としている。
本調査では、観光消費の実態や来訪客による経済波及効果を把握するとともに、今後、さらに経済波及効果を高める手法の検討を行った。

(2)事業の実績と成果

①第二期釧路市観光振興ビジョン中間見直し（令和5年度）
「第二期釧路市観光振興ビジョン中間見直し業務に係る観光振興ビジョン検討委員会」を設置するとともに、より具体的な内容検討を目的とした下部組織として「釧路市観光振興ビジョンワーキング部会」を設置し、前年度（令和4年度）のワーキング部会結果も踏まえながら、検討委員会、ワーキング部会の二段階による体制で第二期ビジョンの中間見直しを行った。

【ワーキング部会：計4回開催】
日程　令和5年7月20日、9月4日、10月3日、11月10日
座長　産業振興部観光振興監
委員　12名
　釧路市
　釧路観光コンベンション協会
　阿寒観光協会まちづくり推進機構
　阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社

【検討委員会：計2回開催】
日程　　令和5年8月9日、令和6年2月15日
委員長　北海道大学公共政策大学院客員教授
　　（釧路市顧問）　小磯　修二
委員　　12名
　上記ワーキング部会委員と同様の構成に加え、
　國學院大學（観光まちづくり学部観光まちづくり学科）教授

②令和5年度釧路市経済波及効果調査
来訪客数（令和4年度釧路市観光入込客数）、消費単価（インターネット調査）、域内調達率（平成27年釧路市産業連関表）により、観光消費による経済波及効果を算出。
結果、令和5年度釧路市経済波及効果は470億円。

「第二期観光振興ビジョン中間見直し(概要版)」「令和5年度釧路市経済波及効果調査(概要版)」

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・第二期ビジョン中間見直しにあたり、経済波及効果を高める観光施策の推進及びDMOや観光関係事業者との連携・推進体制の強化、財源の確保などが課題である。	課題	・第二期ビジョン中間見直しの結果を踏まえ、経済波及効果を高める観光施策の推進及びDMOや観光関係事業者との連携・推進体制の強化、安定的な財源の確保などが課題である。 ・経済波及効果を高めるにあたり、域内調達率の向上に課題があること。
今後(令和6年度以降)の方向性	・第二期観光振興ビジョンの中間見直しを踏まえ、目標指標となる経済波及効果を高める観光施策について、DMOや観光関係事業者等との連携を図りながら、より一層推進していく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・第二期観光振興ビジョンの中間見直しの結果を踏まえ、目標指標となる経済波及効果を高める観光施策について、DMOや観光関係事業者等と引き続き連携を図るとともに、新たな財源（宿泊税等）の確保に向けて施策を推進していく。 ・経済波及効果を高める仕組みである域内循環をしっかり進めるため、これまで以上に幅広い産業間での連携に取り組んでいく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	観光施策推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部阿寒観光振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン 釧路市都市経営戦略プラン/政策プラン
目的と概要	阿寒湖温泉地区の“個性を明確にし、付加価値を高めること”“環境への配慮を進めること”“国際的にも通用する質を高めること”を基本理念とする「ブランド化」と「地域活性化」の推進を目的として、同地区の観光まちづくり推進組織である「NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構」等へ補助金による支援を実施する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	54,078	44,186	44,205
財源	一般財源	（千円）	54,078	44,186	127
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			44,078

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		283.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

阿寒湖温泉ブランド・活性化事業

阿寒湖温泉及び周辺の地域において観光振興を通して地域活性化を図るため、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構等に対し補助金による支援を実施する。

①阿寒観光協会運営・経常事業補助金
- 〇観光案内所の運営
- 〇観光客誘致事業
- 〇観光振興イベントの開催

観光案内所

②観光まちづくり重点戦略推進事業補助金
- 〇異国の森ブランド化事業
- 〇アウトドア基地化推進事業
- 〇花いっぱいプロジェクト事業
- 〇商店街活性化事業

③阿寒湖温泉旅館組合観光客誘致事業補助金
- 〇遊ingリゾート阿寒誘致宣伝事業

阿寒湖氷上フェスティバルICE・愛す・阿寒「冬華美」

阿寒湖ウィンターイルミネーション

(2)事業の実績と成果

阿寒湖温泉ブランド・活性化事業

①阿寒観光協会運営・経常事業補助金
- 〇観光案内所の運営
  - ・阿寒湖温泉及び周辺観光地の案内を行い広域観光へ寄与　　利用者数：14,404人
- 〇観光客誘致事業
  - ・台湾からのチャーター機８便にて観光客を誘致
    搭乗率：93%／往復利用者数：588人
- 〇観光振興イベントの主催
  - ・阿寒湖水開きやまりも祭り、阿寒湖氷上フェスティバルや阿寒湖ウィンターイルミネーションなど

②観光まちづくり重点戦略推進事業補助金
- 〇異国の森ブランド化事業
  - ・計２回、台北でのプロモーション活動実施
  - ・札幌及び東京でのひがし北海道素材説明会への参加
  - ・福岡、広島、大阪、名古屋、東京の大手旅行会社への訪問によるプロモーション実施
  - ・「北海道生活夏号」「北海道大人の旅ガイド」「悠悠北海道観光マップ全道版」「北海道じゃらん」での広告掲載
- 〇アウトドア基地化推進事業
  - ・ATWS2023北海道大会へ参加
- 〇花いっぱいプロジェクト事業
  - ・阿寒湖温泉内にて植栽・花壇整備を実施
- 〇商店街活性化事業
  - ・行灯の設置による商店街の魅力向上や回遊性向上に寄与する「トーラサンペルミナ」を実施
    街の魅力向上や回遊性向上に寄与
  - ・第５回阿寒の森間伐材アート展の実施
  - ・三重県鳥羽市で実施された温泉まちづくり研究会へ参加

③阿寒湖温泉旅館組合観光客誘致事業
- 〇遊ingリゾート阿寒誘致宣伝事業
  - ・冬のロングランイベント「冬華美」による観光客誘客を実施
  - ・各種イベントの宣伝広告による観光客誘致を実施

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・コロナ禍からの早期回復を図るため、国内、海外観光客の回復に向けたプロモーションや地域の受入環境が不足。	課題	・回復傾向にあるインバウンド旅行客への多言語対応や受入環境の更なる強化。 ・閑散期と繁忙期の差の解消（特に閑散期の誘客）。
今後(令和6年度以降)の方向性	・コロナ禍からの早期回復を図るため、国内や、東アジア、東南アジアを中心とした海外旅行客に対するプロモーション及び地域における受入環境の整備を推進。	今後(令和7年度以降)の方向性	・インバウンド旅行客に対応可能な多言語ツールの整備、及び多言語対応可能な人材の確保。 ・閑散期に誘客の底上げを図れるような仕掛けづくり。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	観光誘致広域連携事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部阿寒観光振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路市の魅力である阿寒湖の魅力を最大限に活かす観光政策を推進するため、質の高い自然資源を有する周辺地域と連携強化を図り、ひがし北海道の観光拠点を目指す。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	3,140	7,892	4,131
財源	一般財源	（千円）	3,140	3,766	4,131
	国道支出金	（千円）		4,126	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	1,408	1,427	1,449
	職員数	（人）	0.2	0.2	0.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		50.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

●阿寒摩周国立公園雄阿寒岳登山線道路（歩道）整備事業（滝口公衆用トイレ整備）
自然公園等整備事業補助金を活用した公衆用トイレ解体及び再整備を実施する。

整備前（旧滝口トイレ）

解体時の状況

(2)事業の実績と成果

●おがくずを利用したバイオトイレの導入による滝口公衆用トイレの整備が完了し、令和５年１０月より供用を開始した。
　また、インバウンドにも対応した多言語化による表記も実施。
　外装にはアイヌ文様木製サインを作成し、取り付けを行った。

整備後（滝口トイレ）

文様デザイン

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　拡充
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・周辺地域が相互に連携し補完していける体制づくりが求められている
今後(令和6年度以降)の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・広域連携によって、それぞれの個性的な観光資源を有機的に結びつけた、新たな体験プログラムの企画開発などの地域の特色を活かした体験型観光の推進や広域観光ルートの形成、並びに阿寒摩周国立公園のブランド力向上の波及効果拡大。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	観光人材確保・育成事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部阿寒観光振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	「阿寒湖アイヌコタン」は、ユネスコ世界無形文化遺産である「アイヌ古式舞踊」の伝承はもとより、最新のデジタルアートと融合した「阿寒ユーカラロストカムイ」など、「伝統と革新」を体現する新しい創作や、舞台づくりに取り組む独創的なアイヌコタンだが、この魅力を国内外に向けて発信する人材など、担い手確保が課題となっている。この課題解決に向けて、「釧路市地域おこし協力隊阿寒湖アイヌ文化情報発信推進員（以下「協力隊」という）」の活動を行う。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	0	2,735	17,600
財源	一般財源	（千円）	0	2,735	17,600
	国道支出金	（千円）	0		
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	0	3,568	3,623
	職員数	（人）		0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		17.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○阿寒湖アイヌ文化情報発信推進員の募集
地域おこし協力隊の制度を活用し、アイヌ文化の後継者を育成

・募集人数　４名

・活動概要
アイヌ文化に関する情報発信業務
①アイヌ古式舞踊をはじめ、アイヌ文様の刺繍、木彫り技術の習得など、様々な分野の体験をすること。
②上記の体験などを、ソーシャルネットワークサービス等を活用し発信すること。

アイヌ文化体験学習の指導業務
①アイヌ文化体験学習プログラム（ムックリ制作・アイヌ文様の刺繍、木彫体験）を習得し、参加者に対して指導すること。

(2)事業の実績と成果

○令和５年度事業実績

・応募人数　３名

・インターン実施人数　２名

・阿寒湖アイヌ文化情報発信推進員　活動人数　１名
（活動期間　令和５年８月～令和６年３月）

・活動実績
アイヌ文化に関する情報発信業務
①アイヌ古式舞踊をはじめ、アイヌ文様の刺繍、木彫り技術の習得など、様々な分野の体験を行った。
②上記の体験などを、ソーシャルネットワークサービス等を活用し発信した。

アイヌ文化体験学習の指導業務
①アイヌ文化体験学習プログラム（ムックリ制作・アイヌ文様の刺繍、木彫体験）を習得しながら、参加者に対して指導などを行った。

まりも祭り準備の様子をSNSで発信

釧路市立博物館でアイヌ文化の学習

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価：縮小
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・阿寒湖アイヌ文化情報発信推進員の活動場所を阿寒湖アイヌシアターイコロとし、阿寒アイヌ工芸協同組合のご協力をいただきながらアイヌ古式舞踊をはじめ、アイヌ文様の刺繍、木彫り技術の習得など、様々な分野の体験を実施した。踊りや技術の習得に時間が必要であるほか、指導にも地元の負担が発生し、双方に負担がかかっている。
今後(令和6年度以降)の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・地域おこし協力隊の制度活用は休止することとした。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	阿寒地域活性化事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	阿寒町行政センター地域振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	阿寒丹頂の里エリア内の施設等の整備を推し進め充実を図るとともに、積極的な情報発信と誘客活動を行い、魅力ある日中滞在型道の駅を目指し、阿寒地区の地域活性化に取り組むもの。

【予算・決算データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額	（千円）	9,538	6,442	11,286
財源 一般財源	（千円）	5,938	6,442	11,286
国道支出金	（千円）			
地方債	（千円）	3,600		
使用料・手数料	（千円）			
その他特定財源	（千円）			

【参考データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考① 職員人件費	（千円）	8,448	8,563	8,694
職員数	（人）	1.2	1.2	1.2
参考② 市民一人あたりの費用	（円）		41.3	
市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○釧路市阿寒丹頂の里エリア活性化総合支援業務委託の実施

二年目となる経営コンサルタントによる支援を受けながら、施設管理運営に係る経営改善を引き続き推進するとともに、新商品やイベント・企画を効果的なタイミングで打ち出すことで、年間を通じたエリア全体の集客及び収益増につなげる。

【令和5年度　経営コンサルタント支援計画案】

項目	内容
管理運営に対する経営改善支援	（1）経営改善策の提案と実行支援業務 主要部門の方向性の検討　など
	（2）管理運営マネジメントの強化に対する支援業務 運営方針の検討　など

【丹頂の里エリア入込数及び売上】

令和３年度		令和４年度		令和５年度	
人数	金額（千円）	人数	金額（千円）	人数	金額（千円）
476,316	156,535	510,534	200,007	491,152	231,106

【RVパーク利用実績】

年度	台数		利用人数	
	電源あり（@2,000円）	電源なし（@1,500円）	電源あり	電源なし
R4.7～R5.3	516台	684台	1,068人	1,269人
R5.4～R6.3	1,168台	1,238台	2,323人	2,195人
合計	1,684台	1,922台	3,391人	3,464人
R4売上額	1,032千円	1,026千円	合計　6,251千円	
R5売上額	2,336千円	1,857千円		

(2)事業の実績と成果

◎釧路市阿寒丹頂の里エリア活性化総合支援業務委託の実施

令和5年度計画案に基づき経営コンサルタントによる支援を受け、経営改善並びに集客及び収益増に向けた下記の事業展開に取り組んだ。

＜経営コンサルタント支援回数＞
令和4年度　対面　14日　Web　12日　計26日
令和5年度　対面　 8日　Web　 4日　計12日

（1）経営改善策の提案と実行支援業務
①メニュー見直しによる食材の在庫整理や原価率を抑えるなど経営改善に寄与した。また、阿寒モルト牛を使った新メニューや、繁忙期となる夏に向けた新デザートを発売した。発売にあたっては、阿寒高校の生徒との試食会を実施するなど、阿寒地域一体としてPRを行うとともに、SNSやメディアを活用した情報発信に注力した。

②RVパークの電源ありの区画を5区画増設（計10区画）し、利便性の向上に寄与する施策を実施した。利用人数、売上ともに予想を大きく上回っており、好調に推移した。

（2）管理運営マネジメントの強化に対する支援業務
①各部門（飲食、広報、物販など）における課題の把握や、意識の向上を目的として、部門別の定期打ち合わせを実施した。このことにより、各部門からの意見抽出や経営陣との意思疎通の改善がなされた。

②広報部門において積極的に情報発信を行うこととし、SNSでの定期投稿を行ったほか、イベント・企画時の各メディアへの報道依頼にも力を入れた。また、エリア全体での収益増に向けた情報発信として、ツルセンター発行の鶴だよりをレストランや客室に設置するなど、利用客の施設間の回遊性向上を図った。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・丹頂の里エリア内にある各施設の魅力向上を図り、集客及び収益増につながる効果的な施策の展開	課題	・経営コンサルタントの支援・提案を受けながら、各部門にて様々な企画に臨むことで、年間通してのイベントの実効性や情報発信の重要性を改めて認識しながら取り組むことが出来た一方、エリア内の施設間を回遊する利用客が少ないことが課題であり、エリア全体での収益増に向けた回遊策が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・丹頂の里エリアの今後のあり方方針に基づき、管理運営に係る経営改善に努めるとともに、ソフト施策とハード整備を組み合わせ事業展開していく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・経営コンサルタントの支援は令和6年度が最終年度となることから、今後の自立した経営に向け、管理運営に係る経営改善を継続しながら、能動的に事業展開できるよう意識改革を行う。また、エリア内他施設の案内・お知らせの設置や、施設間の連動企画を実施するなどしながら、利用客のエリア内での回遊を活発化させ、エリア全体での集客及び収益増に努める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	音別町憩いの森施設整備事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	音別町行政センター地域振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	音別町憩いの森の適正な管理、施設の魅力・機能向上を図ることで、利用促進につなげるとともに、集客人口の増加や地域内における消費拡大、音別地区の知名度向上に努める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）		22,990	
財源	一般財源	（千円）	0	550	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）		18,700	
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		3,740	
【参考データ】			**令和4年度（決算額）**	**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	0	1,427	0
	職員数	（人）		0.2	
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		147.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		120.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○音別町憩いの森施設の整備

（1）音別町憩いの森トイレ改修工事

・管理センター及び管理センター横屋外トイレについて、汲み取り式から浄化槽方式に変更し、水洗化を図る。

（2）音別町憩いの森街路灯等LED交換工事

・敷地内に設置している街路灯、投光器をLED化し、機器の長寿命化を図るとともに電気料金の節減を図る。

(2)事業の実績と成果

○音別町憩いの森施設の整備

（1）音別町憩いの森トイレ改修工事

◎浄化槽新設、大便器4基、小便器1基、洗面器3基を更新し、トイレの水洗化を図った。

（2）音別町憩いの森街路灯等LED交換工事

◎街路灯16基及び投光器7基のLED化を図った。

【トイレ改修工事】 浄化槽・大便器

【LED交換工事】 街路灯・投光器

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　終了
課題	令和5年度のみの事業のため、空欄となります。	課題	・利用者に対し安全、安心かつ快適な施設環境を提供するため、計画的に施設整備、更新を行う必要がある。
今後（令和6年度以降）の方向性	令和5年度のみの事業のため、空欄となります。	今後（令和7年度以降）の方向性	・魅力向上による誘客促進に資する整備内容の検討を引き続き進める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	空き店舗等活用促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路市内の空き店舗等の活用促進及びまちの賑わい創出を目的として、空き店舗等に出店する中小企業者等を対象に、店舗の改装等に係る経費に対し補助金による支援を行う。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,310	1,500	3,803
財源	一般財源	（千円）	1,310	1,500	3,803
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	1,449
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		9.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

空き店舗等活用促進事業補助金による支援
・北大通　500千円×5件
・その他　200千円×3件

（1）　補助制度概要

①　対象経費
・店舗改装費　・広告宣伝費

②　限度額
・費用の2分の1以内で20万円
・北大通を中心とした商業地域は50万円

③　対象者
・中小企業者、協同組合等、商店街及びNPO法人

④　対象業種
・日本標準産業分類に定める小売業、
・飲食業及びサービス業（一部、対象外業種あり）

⑤　対象地域
・釧路市内にある商店街振興組合が定款に定める地区
・釧路圏都市計画における商業地域及び近隣商業地域内

⑥　対象店舗
・1階に店舗専用の出入口が設置されていること
・店舗の移転ではないこと
（店舗面積が2倍以上になる事業拡大及び
移転を余儀なくされるやむを得ない事由によるものを除く）

(2)事業の実績と成果

◎補助実績　3件　1,500千円（500千円×3件）

（1）　令和5年度実績の内訳

（単位：件）

	対象業種		
	小売業	飲食業	サービス業
北大通の一部地域（補助上限50万円）	0	3	0
その他の対象地域（補助上限20万円）	0	0	0
合計	0	3	0

（2）　令和元～5年度実績の地区別内訳

（単位：件）

	北大通	その他	合計
令和５年度	3	0	3
令和４年度	3	0	3
令和３年度	4	1	5
令和２年度	4	1	5
令和元年度	6	1	7
合計	20	3	23

◎出店により空き店舗の活用と賑わいが創出された。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：拡充
課題	・アフターコロナを見据えた空き店舗活用が期待される。 ・営業形態の多様化が進み、且つ「賑わい」の考え方も変化している。	課題	・北大通への出店に一定の効果を上げているものの、依然として空き店舗は多い。 ・出店以外の方法により空き店舗を活用し賑わいを生む事業などに対する支援となっていない。
今後(令和6年度以降)の方向性	・空き店舗等のさらなる活用と賑わい創出において、制度のあり方を検討しつつ令和6年度以降も継続実施していく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・遊休不動産の掘り起こし、不動産オーナーと事業者のマッチングを行う。 ・対象とする地域や業種などの補助条件を見直す。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	商工会・商店街等活性化支援事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	商工会・商店街等のイメージアップや競争力強化、商業地域の賑わいを創出する事業に対し、当該事業に要する経費の一部を予算の範囲内で補助することにより、商工会・商店街等の活性化を図ることを目的とする。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,780	1,842	2,300
財源	一般財源	（千円）	0	0	2,300
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	1,780	1,842	

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		11.8	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

商工会・商店街等活性化支援事業補助金による支援
・予算額　2,450千円

（1）　補助制度概要

①　対象事業
・調査・イベント事業等
・軽微な環境整備事業

②　対象団体
・商店街等（商店街振興組合、商店街振興組合連合会、特定の事業協同組合、商店街振興組合連合会加盟の商店会）
・商工会
・前記ア・イの組織が中心となり事実上運営する実行委員会など

③　補助金の額
・商工会、商店街等が行う事業
　事業費の2分の1以内（上限20万円）
・商店街振興組合連合会が行う事業
　事業費の2分の1以内（上限50万円）

(2)事業の実績と成果

◎補助実績　8件　1,842千円

（1）　事業別実績

	件数（件）	金額（千円）
①　調査・イベント事業等	7	1,700
商店街振興組合	2	400
商店会	2	400
商工会	1	200
実行委員会（商工会）	1	200
商店街振興組合連合会	1	500
②　軽微な環境整備事業	1	142
商店街振興組合	1	142

◎イベント開催や花壇整備等の環境整備により、
商店街等の集客力向上や賑わい創出に繋がった。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・人口減少、電子商取引の拡大など、地域経済の構造変化により、商店街等に求められる機能が変化している。 ・組合員数の減少、高齢化により活動が停滞している商店街も見られる。	課題	・人口減少、電子商取引の拡大など、地域経済の構造変化により、商店街等に求められる機能が変化している。 ・組合員数の減少、高齢化による活動の停滞や、解散する商店街も見られる。
今後(令和6年度以降)の方向性	・競争力強化や集客力向上に加え、新たな機能付加につながる支援策について検討する必要がある。	今後(令和7年度以降)の方向性	・イメージアップ、競争力強化や集客力向上のため、継続して実施する。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	中心市街地活性化対策事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路の顔として中心市街地の拠点性を高めるとともに、魅力と賑わいの創出を図るために、商工会議所等と連携して研究や事業を進める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	810	1,019	4,715
財源	一般財源	（千円）	810	1,019	864
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			3,851

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	7,245
	職員数	（人）	0.5	0.5	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		6.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

（1）　中心市街地活性化協議会の運営

①　運営支援
・中心市街地の活性化に関する法律に基づき、釧路商工会議所及び株式会社まちづくり釧路が設置する協議会の運営支援を行う。

（2）　調査研究事業

①　中心市街地の土地利用実態調査
・活性化事業推進の参考とするため土地利用の実態を把握する。

②　中心市街地活性化研究会による検討
・人流を作り、沿道の投資や活用を促すことで、恒常的な賑わいを生み出そうと考え、協議会の中に、地元経営者等で組織する研究会を立ち上げ、新たな視点から検討を進める。

(2)事業の実績と成果

（1）　中心市街地活性化協議会の運営

①　運営支援
・運営委員会、協議会を開催するとともに、有識者等とともに事務局会議を行った。

（2）　調査研究事業

①　◎中心市街地の土地利用実態調査
・空き店舗比率
（R4）13.43%→（R5）13.61%

②　中心市街地活性化研究会による検討
◎中心市街地の事業経営者など8名のメンバー、経済産業省事業により派遣を受けたコーディネーターと事務局にて組織を立ち上げ。
◎令和5年9月から令和6年3月に全8回開催。
5名の専門人材を招聘し議論。
◎令和5年度議論における目指すべき方向性
～ 一次産業の課題解決都市・釧路 ～
1次産業に関わる人が多くユーザーの声を拾いやすいなど、実証フィールドとしての優位性が高く、釧路のオリジナリティが見込める「次世代水産業」を中心に、市内外の研究者、企業などと連携、集積することにより賑わいを生み出す。
・今後は本テーマを掘り下げていくとともに、他テーマの探求も進める。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　拡充
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・ 北大通への出店補助などで一定の効果を上げているものの、依然として空き店舗は多いことや、商業面からの支援が主となっており、他のアプローチが少ない。
今後(令和6年度以降)の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・ 一次産業の課題解決都市について、市内外の関係者と関係を深める協議を行うとともに、より具体的な内容について検討を進める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	中小企業振興資金貸付対策事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市中小企業振興条例
目的と概要	中小企業の安定した経営とその基盤の強化などに要する資金の円滑な供給を図るため、中小企業等に対し低利融資のあっせんを行う。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○ 釧路市の融資制度概要

貸付金の種類	融資限度額	金利	用途
丸釧資金	5,000万円	1.3%	経営合理化、設備の近代化等に充てるもの
創業支援資金	1,500万円	4年目以降1.3%	創業に係る運転資金または設備資金に充てるもの
がんばる企業応援資金	5,000万円	4年目以降1.3%	事業の拡大、新分野への進出、経営・事業の効率化・近代化に充てるもの
空き地・空き建物再生事業資金	1億円	4年目以降2.1%	空き地・空き建物の再生を図るための設備資金に充てるもの
中小企業経営安定資金	500万円	0.8%	小規模事業者等の経営の安定化に充てるもの
中心市街地活性化事業資金	2億円	4年目以降2.1%	建物の新設等や、賃貸用集合住宅建物の建設事業に充てるもの
高度化事業資金	5,000万円	1.3%	北海道から貸付を受ける高度化事業に充てるもの
協同組合等事業資金	5,000万円	1.3%	組織金融の円滑化または協同事業資金に充てるもの

○新規融資利用計画

貸付金の種類	融資枠想定金額
丸釧資金	1,378,620 千円
創業支援資金	160,835 千円
がんばる企業応援資金	243,648 千円
その他資金	30,000 千円
合計	1,813,103 千円

(2)事業の実績と成果

◎新規融資利用実績

貸付金の種類	件数	金額
丸釧資金	88 件	995,060 千円
創業支援資金	42 件	141,111 千円
がんばる企業応援資金	18 件	276,990 千円
その他資金	3 件	64,000 千円
合計	151 件	1,477,161 千円

○年度末全融資合計残高の推移

	2年度	3年度	4年度	5年度
件数	606件	556件	547件	523件
残高金額	36.9億円	33.1億円	33.1億円	32.2億円

【予算・決算データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額	（千円）	1,980,284	2,068,336	2,362,624
財源　一般財源	（千円）	11,498	12,565	18,678
財源　国道支出金	（千円）			
財源　地方債	（千円）			
財源　使用料・手数料	（千円）			
財源　その他特定財源	（千円）	1,968,786	2,055,771	2,343,946

【参考データ】		令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考① 職員人件費	（千円）	6,336	6,422	6,521
参考① 職員数	（人）	0.9	0.9	0.9
参考② 市民一人あたりの費用	（円）		13,268.8	
参考② 市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1)　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2)　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・事業者や創業者が融資の使途が多様化しており、現行の制度では利用できない事業者がいる。また、経営者層の高齢化に伴い、事業承継需要が高まってくると思われるが、その際にも融資の利用が可能であることの周知不足。	課題	・事業内容の多様化に伴い、融資の資金使途も多様化している。現行の融資制度では利用できない事業者が存在する。
今後(令和6年度以降)の方向性	・がんばる企業応援資金等の対象者要件を見直し、多様な事業者が利用できる制度に更新していく。 ・事業承継時にも対応可能な融資があることを、金融機関を中心に事業者へも周知を行う。	今後(令和7年度以降)の方向性	・日本銀行のマイナス金利政策解除に伴い、国内の金利が上昇している。今後、既存の融資制度では対応が難しくなると考えられ、制度内容の見直しが必要になる。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	中小企業・小規模事業者活性化推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市創業支援事業計画
目的と概要	地域経済のプラス成長と雇用の創出を図るため、中小企業・小規模事業者の自立的・自主的な努力を前提として、成長発展を目指す取組に対し、「釧路市創業支援事業計画」に基づきワンストップ相談窓口を設置するほか、段階に応じたきめ細やかな支援を行い、中小企業・小規模事業者の「稼ぐ力」の強化を図る。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	643	17,599	143
財源	一般財源	（千円）	393	421	143
	国道支出金	（千円）	250	250	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		16,928	
【参考データ】			**令和4年度（決算額）**	**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		112.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①各支援機関と連携したワンストップ相談窓口の設置・運用
・創業の準備期間から成長段階まで、事業者のステージに応じた相談に対応し、連携する創業支援機関への接続を行う。
・ワンストップ窓口での創業支援対象者（目標）：46件（延べ）
・ワンストップ窓口を利用した創業者数（目標）：5件

②情報提供の充実
・市内での創業を考える潜在的な創業者や中小企業・小規模事業者向けのセミナー情報や補助金等の支援制度の情報を掲載するポータルサイト「ビジサポくしろ」やSNS、LINEを運用し情報発信を行う。「ビズサポくしろ」URL(https://www.bizkushiro.jp/)

【ビズサポくしろ　トップ画面】

③中小企業・小規模事業者活性化補助金（ビズサポ補助金）
・市内の中小企業・小規模事業者の売上アップや人材確保の取組に係る経費の一部を補助し、支援する。
・申請件数（想定）：60件

④特定創業等支援事業（創業スクール）に対する補助金
・釧路市創業支援事業計画に基づく特定創業等支援事業（創業スクール）の実施するにあたり補助金を交付する。

(2)事業の実績と成果

①各支援機関と連携したワンストップ相談窓口の設置・運用
・市職員と創業支援機関が連携を行い、以下の結果となった。

◎ワンストップ窓口での創業支援対象者数（実績）：25件（延べ）
◎ワンストップ窓口を利用した創業者数（実績）：2件
◎各機関と連携し支援した創業者数（実績）：58件

②情報提供の充実
・ポータルサイト「ビズサポくしろ」の運用によるセミナー情報や補助金等の支援制度の情報発信を行った。
◎ビズサポくしろ（令和5年度の実績）
・投稿件数　24件
・閲覧数　2,055回

【投稿事例】
・中小企業・小規模事業者活性化補助金
・IoTスモールスタートモデル形成事業補助金　成果報告会
・中小・小規模企業新事業展開・販売促進支援補助金
・令和5年度地域活性化雇用創造プロジェクト事業
・インボイス制度実務＆電子帳簿保存対応セミナー
・「エネ補助」拡充のお知らせ
・釧路市テレワーク×マッチングモデル事業
・事業再構築補助金公募
・BCPセミナー
　など

③中小企業・小規模事業者活性化補助金（ビズサポ補助金）
・市内の中小企業・小規模事業者の売上アップや人材確保の取組に係る経費の一部を補助し、支援した。
◎交付件数：54件

④特定創業等支援事業（創業スクール）に対する補助金
・釧路市創業支援事業計画に基づく特定創業等支援事業（創業スクール）の実施にあたり、補助金を交付した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：拡充	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・ワンストップ相談窓口については、令和5年度に開始するスタートアップ人材創出事業やk-Bizをはじめ創業支援機関と連携の上、創業・スタートアップの創出支援や創業者への支援制度の更なる充実を図る必要がある。	課題	・ワンストップ相談窓口については、相談窓口に来られた方からの創業者が目標を下回っているため、k-Bizをはじめ創業支援機関と連携の上、創業者への更なる支援制度の充実を図る必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・「ビズサポくしろ」については、原油高・物価高騰対策などの記事掲載や原油高・物価高騰対策として中小企業・小規模事業者や創業準備者への支援制度を検討するほか、各支援制度などについて情報発信力の強化にも努める。	今後(令和7年度以降)の方向性	・ポータルサイトの「ビズサポくしろ」を活用した支援メニューの情報発信に限らず、SNSも併用した情報発信力の強化に努める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	スタートアップ人材創出事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	スタートアップ人材の継続的な創出に向け、プログラミング技術の習得等の人材育成の場の提供に係る取り組みを官民連携により実施する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）		17,844	25,646
財源	一般財源	（千円）	0	16,544	5,200
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		1,300	20,446

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	0	7,136	7,245
	職員数	（人）		1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		114.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①主な取組

ア）官民連携のシステム開発企業「株式会社k-Hack」の設立及び運営費補助の支出

・釧路市をはじめとした市内商工団体、金融機関、その他関係機関との共同出資により設立する。

・人件費を除く会社運営費の補助を行い、3年後（令和8年度）以降の自走化に向けた支援を行う。

イ）株式会社k-Hack運営によるIT人材の採用及び人材育成

・市内の高度IT人材を品質管理を行うプロダクトマネージャーとして配置し、人材育成の体制づくりを行う。

ウ）地域おこし協力隊の配置による自走化運営の体制づくり

・株式会社k-Hackの受注案件の管理及び人材育成を担うIT業務の経験豊富な人材を協力隊員として配置し、自走化及び継続的な人材輩出を目指す。

(2)事業の実績と成果

①主な取組

ア）官民連携のシステム開発企業「株式会社k-Hack」の設立及び運営費補助の支出

・令和5年6月2日　株式会社k-Hack設立。

・同日、設立記者会見を開催。

・令和5年9月1日　事業開始。

・安定経営を目的に、運営費補助による支援を実施。

・当事業に対し、企業版ふるさと納税2件計130万円を受納。

イ）株式会社k-Hack運営によるIT人材の採用及び人材育成

・プロダクトマネージャーとして、3名を配置し、受注業務の品質管理及び人材育成の体制を整備。

・k-Hackと都内SIer企業との間で業務提携契約を締結し、安定した業務の受注及び人材育成の体制を整備。

・令和5年度末時点の採用実績は以下のとおり。

正社員　10名（うち9名は市外からの移住を伴う採用）

アルバイト　5名（釧路工業高等専門学校生を含む）

ウ）地域おこし協力隊の配置による自走化運営の体制づくり

・令和5年12月1日より、地域おこし協力隊を配置。

・受注案件の管理業務や人材育成に関わる業務に従事。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　継続維持
課題	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	課題	・安定的な受注の確保と人材育成の体制整備の早期実現により、採用計画の前倒しを行っているため、短期的に販管費の増額が見込まれ、運営費補助の支出計画について見直しが必要。
今後(令和6年度以降)の方向性	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・k-Hackの運営状況に合わせ、令和6年度の運営費補助金を増額し、令和7年度についても運営状況と自走化への進捗を考慮しながら、運営費補助金額を検討する。 ・引き続き、k-Hackと連携をしながら域外からの採用を強化し、市内でのスタートアップ人材創出を目指す。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	ビジネスサポートセンター事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	中小企業等の「稼ぐ力」を強化することで、地域経済のプラス成長と雇用の創出を図ることを目的に、相談者の「売上増」に重点を置いた支援を行う、釧路市ビジネスサポートセンターk-Bizを運営する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	44,290	43,556	51,482
財源	一般財源	（千円）	13,732	9,588	343
	国道支出金	（千円）	22,058	21,691	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	8,500	12,277	51,139

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	12,672	12,845	13,041
	職員数	（人）	1.8	1.8	1.8
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		279.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画	（2）事業の実績と成果
①主な取組 ア）個別経営相談事業 ・1回60分を目安とした対話形式 ・価値を見出し、強みを生かした売上増加策を提案 ・bizモデル創始者小出宗昭氏を招聘した個別相談会の開催	①主な取組 ア）個別経営相談事業 〇新規予約申込数　115社 ◎相談件数（のべ）　1,878社 ◎相談者アンケートの回答（n=100） ・「相談により良い変化があった」　79.0% ・「相談により売上があがった」　23.0% ・「相談により雇用が増えた/創業した」24.0% うち　雇用者増数　32人、創業者数　12人 ◎メディア掲載件数　新聞　102件、テレビ11件 〇小出氏による個別相談会の開催　計5件
イ）各種セミナー等の開催 ・中小企業、創業希望者、学生等の課題解決や意識啓発に係るセミナーの開催	イ）各種セミナー等の開催 〇開設5周年記念シンポジウム 5年間の成果報告及び有識者による基調講演並びにパネルディスカッションを実施。事業者並びに支援機関への認知向上及び利用拡大につながった。 日時：12月22日（金）　参加者数：230名 基調講演：中小企業庁長官　須藤　治　氏 パネルディスカッション： 衆議院議員　鈴木　貴子　氏 中小企業支援家　小出　宗昭　氏 釧路市長　蝦名　大也 〇2023年日経MJ　ヒット商品番付から読む消費トレンド　動向と未来 日時：12月15日（金）　参加者数：20名 講師：日本経済新聞社　編集局編集委員　田中　陽　氏
ウ）各種連携事業の実施 ・相談者とk-Biz間、相談者同士のマッチング、コラボレーションによる各種連携事業を適宜実施する。 ・全国Biz連携ネットワークをはじめ、他都市Biz等との連携による機能向上を図る。	ウ）各種連携事業の実施 〇北海道経済産業局との連携 ・k-Biz入口に経済産業省施策コーナーとして資料ラックを用意し、各種パンフレットを設置 ・北海道経済産業局主催イベント「社長焚火ごはん」にk-Biz共催、モデレーターとして澄川センター長参加 〇全国Bizネットワークによる他Bizとの連携 ・12月22日全国Biz研修会を開催 全国のBizモデルセンター長、副センター長等15名参加 業務の質向上のため情報交換・連携を深める会議を釧路にて開催。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・アンケート結果から、事業者支援の役割を果たせているものと認識しており、継続実施の予定。一方で、財源としている地方創生推進交付金に係る計画は令和5年度までであり、それ以降の財源確保が課題である。	課題	・アンケート結果から、事業者支援の役割を果たせているものと認識しており、継続実施の予定。一方で、財源としているデジタル田園都市国家構想交付金に係る計画は令和5年度までであり、企業版ふるさと納税等による財源確保が課題である（【実績】令和5年度：寄付件数1件　寄付金額30万円）。
今後（令和6年度以降）の方向性	・引き続き企業版ふるさと納税の活用等による財源確保を行う。	今後（令和7年度以降）の方向性	・引き続き企業版ふるさと納税の活用等による財源確保を行う。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	IoT推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	あらゆる機械や製品にセンサーや通信機能を搭載し、ネットワーク上でつなぐIoTを推進するため、自治体や地元企業がチームを組んで課題解決に取り組む経済産業省主導のプロジェクト「地域DX推進ラボ」に選定された、「釧路市DX推進ラボ」に対して支援を行う。 人材育成、地域におけるIoT普及促進、企業との共同研究等を柱としており、IoTにより地域課題の解決に資するため、シーズを持つ企業との連携、事業化に向けた実証試験等を行っている。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	659	1,155	1,800
財源	一般財源	（千円）	329	577	1,800
	国道支出金	（千円）	330	578	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和4年度（決算額）**	**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	3,623
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		7.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①人材育成・地域におけるIoT普及促進事業

・「IoTハッカソン」開催助成

地域の課題を考え、解決に資するシステムをその場で開発する場として釧路市内で開催されるハッカソンの開催経費を一部支援。

②地域の課題解決に資するIoT等の活用取組支援

・地域の課題解決に資するIoT等の活用推進（課題抽出・計画立案実証実験等）の取組を支援する。市内企業によるIoT等の実装を進め、新たな産業の創出や生産性の向上を図る。

(2)事業の実績と成果

①人材育成・地域におけるIoT普及促進事業

・「IoTハッカソン」開催助成

アフターコロナでのイベント開催を目指したが、実施団体内での体制が整わず開催を断念することとなった。

②地域の課題解決に資するIoT等の活用取組支援

・中小企業IoT導入(スモールスタートモデル形成事業)補助事業

中小企業のIoT導入を支援し、モデル事例を形成することにより、多くの事業者への導入促進を図ることを目的に2事業者の取組を支援。

(a)AIカメラ及び券売機データ収集によるコストの適正化とサービス向上への取り組み

来店客を判別するカメラ映像

駐車場の混雑を判別するカメラ映像

(b)人感センサー活用によるリアルタイム空席状況確認システム＆関係人口を増やす利用者データ活用事業

空席状況を把握してオンライン上で公開する概要図

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・IoTやデジタル技術を活用した事業者の経営改善の取組や市民生活の向上に資する具体の事例、知見の情報発信が不足しており、事業者のデジタル活用の意向を高められていない。 ・当市におけるLPWAの商用サービスが開始されておらず、実用事業に着手されていない。	課題	・令和5年度に一般社団法人釧路地域DX推進協会が発足し、地域企業のDX推進やデジタル化推進の支援を行っている。しかし、市内事業者に対してDXやデジタル活用の必要性の認識を高められておらず、取組の推進、支援事例の蓄積には至っていない。 ・蓄積してきたデジタル活用事例の情報発信が不足しており地域内に波及できていない。
今後(令和6年度以降)の方向性	・IoTスモールスタートモデル形成事業の成果等の情報発信について、市内事業者の理解と取組を促すような効果的な内容と方法を検討して実施する。 ・新たにDX等の機運が高まっているので、DX推進ラボ(旧：IoT推進ラボ)の地域企業DX支援やデジタル人材育成等の取組を支援し、市内事業者の生産性向上、業務効率化を図る。	今後(令和7年度以降)の方向性	・これまでに蓄積したデジタル活用による業務改善等の事例について、市内事業者の理解と取組意欲を促すような効果的な内容と方法を検討して情報発信する。 ・地域企業のDXを進める必要があるため、釧路地域DX推進協会が行う地域企業DX支援やデジタル人材育成等の取組を支援し、市内事業者のDXへの理解や取組意欲を高め、デジタル活用による生産性向上、業務効率化を図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	新産業創造等推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	新産業創造に向けた各種調査等の実施

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	12,054	16,847	10,647
財源	一般財源	（千円）	11,438	16,847	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	616		10,647

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	4,224	4,282	4,347
	職員数	（人）	0.6	0.6	0.6
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		108.1	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
(1)新たな産業創出に向けた各種調査等の実施 (2)完全閉鎖型陸上養殖事業の実証試験 ・完全閉鎖型陸上養殖事業実証試験の支援　(3カ年事業の2年目)	(1)新たな産業創出に向けた各種調査等の実施 ・旅費　8件　332,902円(視察・打ち合わせ等) (2)完全閉鎖型陸上養殖事業の実証試験 (3カ年事業の2年目) ・事業主体:(株)ウイルステージ ・総事業費:56,724千円 (令和4年度17,158千円、令和5年度24,772千円、令和6年度14,794千円) ・補助金　:37,814千円(補助率2/3) (令和4年度11,438千円、令和5年度16,514千円、令和6年度9,862千円) ▲日本製紙(株)釧路事業所内倉庫で育ったシロサケ(最大約40cm) ▲孵化後のベニサケの稚魚 ◎完全閉鎖型陸上養殖の重点となるアンモニアから魚が発生する有毒な物質(硝酸等)を浄化する生物浄化システムや、システムを適切に稼働させるための水温コントロール等、様々な知見を蓄積することができた。

3　事業実施上の課題と今後(令和7年度以降)の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・実証試験や市への進出案件など、事業や相手方によって、一気に進展する場合があることから、当初予算で対応できないケースも想定される。その際には、補正予算も視野に入れ、より進展可能性が高くなる取組方法が必要となる。 ・日本製紙㈱釧路工場跡地活用の検討。	課題	・陸上養殖を地域に根ざした産業とするため、商業化に向けた検討を進める必要がある。 ・地域における新たな産業の創出において、既存産業、特に一次産業の強化は不可欠であり、庁内関係課と連携し研究を深める必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・地域産業の活性化及び地域の課題解決に向け、新たな産業創出に繋がるよう各種取組を継続する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・関係機関と連携し、陸上養殖の大規模養殖実証、採算性の検証、流通先の検証等を進める。 ・日本製紙跡地の活用を視野に入れながら、地域の新たな産業づくりに向けて取組を進める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	釧路新産業創造研究会補助金＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路地域における産業経済の振興を図るため、新産業創造に向けて、必要な調査研究等を行い、より実現性の高い産業を見出し、もってその実現に資することを目的とする「釧路新産業創造研究会」の取組みに要する経費を予算の範囲内で補助する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	0	3,000	3,000
財源	一般財源	（千円）	0	0	3,000
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		3,000	

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		19.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

釧路新産業創造研究会への補助金の交付
・新産業創造に関する調査・研究
・新産業創造に関する情報収集・提供、連携の場の創出
・新産業創造に関する実証事業
・新産業創造の事業化可能性検討
・その他新産業創造に関し必要な事業

(2)事業の実績と成果

釧路新産業創造研究会への補助金の交付
【事業内容】
　プロジェクト形成に向けたアイデア創出の場として、先進事例の調査・研究活動を行う研究会や視察を実施するとともに、今後研究会の活動を進めていくためのネットワークの構築を行った。
・総会
・研究会　4回
・意見交換会　1回
・視察会　1回

◎研究会1年目の活動として、プロジェクト形成に向けた様々なアイデアの創出並びに、地域における参画メンバーのネットワーク構築を支援することができた。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　継続維持
課題	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	課題	・釧路地域の新産業創造に向けて、より実現性の高い産業を見出し、具体の実証等につなげていくためにも、民間主体のネットワーク等を活かした当研究会の活動を、引き続き支援していくことが必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	令和5年度からの新規事業のため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・研究会において、前年度の活動の中で挙げられた様々なアイデアについて、さらに釧路での可能性を掘り下げ、具体の実証などにつなげる準備を進める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	地場産品普及促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	地場産品の普及促進、販路開拓に向けたPR活動などに加え、釧路管内の生産者・流通業者・支援団体等で構成される「地産地消くしろネットワーク」を支援することで、地元への愛着心を高めることに努めながら、「質のいい消費やサービスを地元で育て地元で消費」する地産地消の取組を推進する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	504	780	500
財源	一般財源	（千円）	0	0	500
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	504	780	

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		5.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①地元における地産地消イベントへの参加・実施	①地元における地産地消イベントへの参加・実施 ◎イベント参加回数1回 （R4年度：1回）
②地産地消親子イベントの実施	②地産地消親子体験イベントの実施 ◎実施回数2回（R4年度：1回）
③地場産品料理教室の実施	③地場産品料理教室の実施 ◎実施回数1回 （R4年度：1回）
④人材育成事業 ・地産地消についての出前授業（生涯学習まちづくり出前講座、生産者系出前授業）の実施	④人材育成事業 ◎地産地消についての出前授業の実施 ・生涯学習まちづくり出前講座 3件・86人（R4年度：4件・75人） ・生産者系出前授業 18件・650人（R4年度：18件・770人）
⑤地域外での販路開拓に向けた支援	⑤地域外での販路開拓に向けた支援 ◎札幌グランドホテル・横浜ベイシェラトンホテルでの北海道フェア（R4年度：札幌グランドホテル1回）
⑥地産地消活動に対する支援	⑥地産地消活動に対する支援 ◎SNSにおける情報発信 フェイスブック　新規投稿81件、シェア26件 （R4年度：新規投稿79件、シェア53件） インスタグラム、新規投稿　81回 （R5.1月から開設） ◎SNSを活用したPRイベントの実施 2回（R4年度：2回） ◎地元飲食店等に対する情報収集に向けた検討

▲地産地消親子体験イベント

▲イベント「パプリカの日」

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・生産者や企業と消費者を繋ぐ継続した取組が必要である。 ・地場産品の認知度を上げるために協力企業と連携し、効果的にSNSを活用するなど、情報発信の充実が必要である。 ・域外への地場産品の認知度向上を行うため、食材の調達や活用方法などの調整をし、宿泊施設等で釧路フェアイベントを継続して行っていく必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・各種事業を実施するなど地産地消の取組を推進するとともに、引き続き「買ってもらう取組」「消費者と企業を繋ぐ取組」をすすめる。

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・消費者が地場産品を知る・選ぶ機会が増えるような取組が必要である。 ・SNSのフォロワーが順調に増加しているが、今後も継続的な情報発信を続け、地場産品の普及に努める必要がある。 ・域外への地場産品の認知度向上を行うため、食材の調達や活用方法などの調整をし、宿泊施設等で釧路をPRできる機会を検討する必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・当市における地産地消の取組を息の長いものにするため、市民への普及PRに努める。また、引き続き「買ってもらう取組」「消費者と企業をつなぐ取組」に重点とする活動を行う。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	販路開拓支援事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	地域経済の活性化には地元企業の売上増進が必要不可欠であることから、関係機関と共に、収集した市場情報の地元企業への積極的な提供、販路開拓に向けた地場産品の情報集約、企業訪問による課題の把握や解決支援及び商談会への出展支援等に連携して取り組み、販路開拓を支援する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,178	972	1,881
財源	一般財源	（千円）	642	440	1,881
	国道支出金	（千円）	536	442	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		90	

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		6.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
① 販路開拓の基礎構築 ・企業訪問による、地場産品及び企業の情報集約と、課題の把握及び解決支援。 ・市の事業において繋がりのあるバイヤーなどに対して、地場産品情報を提供し、販路開拓を支援する。	① 販路開拓の基礎構築 ・企業訪問等を通じて企業が抱える課題や強み、商談会等への参加意向等の聞き取りを行った（16社）。
②商談会出展支援 ・関係機関と連携した域外の商談会出展支援。	② 商談会出展支援 【関係機関と連携した域外商談会出展支援】 ・案件なし
③小売との商談会開催 ・首都圏等に複数店舗を有する高質小売店及びECサイト運営事業者と地域との商談会開催。	③首都圏小売事業者等との商談会開催 （釧路市、釧路商工会議所、釧路信用金庫主催） R6.1　釧路市、参加企業：12社、商談件数61件。 ◎地元企業の強みや販路拡大に係る課題を把握するとともに、首都圏小売事業者等との商談会開催により、新たな商談や今後の商談に繋がるバイヤーとの関係構築・商品の改善点の把握等を行う支援をすることができた。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・域外での販路開拓のため、市内事業者と首都圏バイヤーとの関係を深化させる継続的な支援が必要である。 ・事業者に対してより効果的な金融機関・関係機関との連携の在り方について検討が必要である。	課題	・当地域の事業者にあった商談先を選定するとともに、地元事業者においては商談先のニーズに沿った商品・サービスの開発・改良を行う等、継続した取組みが必要である。 ・地域経済のさらなる活性化に向けた、販路開拓・拡大に意欲的な事業者の掘り起こしが必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	・企業訪問などを通じて、継続的に支援ニーズを把握し、金融機関や関係機関と連携した、効果的で多様な商談機会の創出を模索し、地域の販路開拓に向けた支援に取り組む。	今後(令和7年度以降)の方向性	・市内事業者と域外バイヤーとのネットワーク構築に係る継続的な支援を行うとともに、金融機関や関係機関と連携した企業訪問や、効果的で多様な商談機会の創出に務める。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	中小企業育成強化促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	釧路工業専門学校の学生に、地域の企業（技術）を学びながら、柔軟な発想を生かしたPR動画（3～5分程度）を作成してもらい、学生の育成及び地元就職、企業のPRに活用するものとする。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
企業PR動画の製作 ・釧路工業高等専門学校の学生との連携により、優れた技術を持つ地元企業のPR動画を製作する。	企業PR動画の製作 ・釧路工業高等専門学校の教員不足により実施体制が整わなかったことから、令和5年度は事業未実施となった。また、今後も同校での継続実施が困難との連絡があったため、次年度以降実施主体を変更した上での事業継続が可能かどうか、可能な場合どのような形で事業を進めていくかの検討を行った。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	24	0	120
財源	一般財源	（千円）	24	0	120
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		0.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・令和5年度以降は教員の入れ替え等で学校側の運営体制が整わず、同体制での継続実施が困難であることから、新たな実施主体での事業実施を検討する必要がある。	課題	・実施主体を変更の上で事業継続となった場合でも、これまでと同等の成果は得られるよう、事業者と細かな進捗確認等を行う必要がある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・地元企業の持つ魅力や優れた技術力を知ることができ、地元企業への技術貢献、就職に繋がる取り組みであることから、引き続き事業を推進するとともに、新たな実施主体での事業実施も検討する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・地元企業の持つ魅力や優れた技術力を知ることができ、地元企業への技術貢献、就職に繋がる取り組みであることから、引き続き事業を推進していく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	ふき紙普及促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	音別町行政センター地域振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	音別地域の特産品である蕗の皮を原料とした全国的にも珍しい和紙「富貴紙」の文化継承、普及促進を図るため、安定した製造体制を維持することにより、地場産業の振興及び雇用の場の確保に努める。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	8,687	3,743	4,216
財源	一般財源	（千円）	6,964	1,834	△ 1,037
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	1,723	1,909	5,253

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	14,080	14,272	14,490
	職員数	（人）	2.0	2.0	2.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		24.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

(1)普及促進のための体験会などの開催

(2)ふき紙製品の販路拡大

(3)ふき紙製品の開発

(4)ふき紙生産体制の維持

(5)地域おこし協力隊との連携活動

【紙漉き体験会の様子】

【チューリップフェア出店】

(2)事業の実績と成果

(1)普及促進のための体験会などの開催
◎おんぽーとのほか、市内及び札幌市において紙漉き体験会を開催し、普及促進を図った。（体験者数：441人）

年　度	R3	R4	R5
体験者数（人）	112	235	441

(2)ふき紙製品の販路拡大
◎新たに市内5か所、札幌市1か所において富貴紙製品の委託販売を開始した。（販売店舗数：17か所）

年　度	R3	R4	R5
販売店舗数（か所）	9	11	17
販売収入（千円）	1,167	1,723	1,909

(3)ふき紙製品の開発
◎扇子など既存製品のほか、ディフューザーキッド及び卓上ランプの製作を行った。

(4)ふき紙生産体制の維持
◎現行の3名に呼び上げ2名を加えた体制により、年間目標の7,000枚を超える7,637枚を生産した。

年　度	R3	R4	R5
生産枚数（枚）	2,207	5,361	7,637

(5)地域おこし協力隊との連携活動
◎各種イベント、催事への出店において富貴紙の普及、販売促進活動を行った。（出店回数：12回）

年　度	R3	R4	R5
出店回数（回）	-	14	12

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・目標生産枚数達成のため、安定した製造体制の維持を図るとともに、更なる普及促進を図るため、これまで取り組んできた紙漉き体験会の開催、新商品の開発、販路拡大を継続していく必要がある。	課題	・安定した製造体制を維持できており、順調に生産枚数を伸ばせている一方で、事業収支の改善を図る必要がある。
今後（令和6年度以降）の方向性	・安定した製造体制を確立することができたことから、年間生産枚数1万枚以上を目指した増産体制の構築を図る。 ・富貴紙の普及促進を中心とした地域おこし協力隊との協力体制を築き、釧路市外への普及、販促活動の強化を図る。	今後（令和7年度以降）の方向性	・収支改善に向けこれまで取り組んできた普及活動、販路拡大活動を継続、強化していく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	テレワーク等推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部都市経営課 産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	近年の働き方改革による労働環境の多様化や、新型コロナウイルスの感染症拡大でテレワークの活用が加速化し、人の流れが東京圏以外の地域へ向き始めている。新たな人・企業を呼び込む切り口として、ワーケーションを推進することで、人・企業の流れを創出し、首都圏等からの企業の呼び込み・移住に結び付ける。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	7,815	6,595	7,799
財源	一般財源	（千円）	3,951	3,298	3,983
	国道支出金	（千円）	3,864	3,297	3,816
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,520	3,568	3,623
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		42.3	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

（1）年度当初計画	（2）事業の実績と成果
1．テレワーク環境整備事業 ①コワーキングスペース（MOO5階）の管理・機能強化	1．テレワーク環境整備事業 （1）コワーキングスペースの管理・機能強化 パーソルワークスデザイン株式会社に管理・機能強化など、首都圏等からの企業の呼び込み等を委託し、集客力の強化を図った。
2．テレワーク情報発信事業 ①テレワーク及びワーケーション紹介用ホームページの管理 ②WEB等各種メディアを使った情報発信	2．テレワーク情報発信事業 （1）テレワーク及びワーケーション紹介ホームページの管理 【URL】 http://kushiro-workstyle.jp （2）WEB等各種メディアを使った情報発信 ①PRtimesを活用した情報発信 ②パーソルワークスデザイン社WEBサイト構築
3．人・企業の呼び込み ①ワーケーション誘致誘客事業 ②ビジネスマッチングイベント参加 ③地域連携型サテライトオフィスモデル事業	3．人・企業の呼び込み （1）ワーケーション誘致誘客事業 実績：企業研修1社、ワーケーション体験7件、 利用人数：464名 （2）ビジネスマッチングイベント参加 ①令和5年度自治体×企業オンラインマッチングイベント参加（株式会社あわえ主催） ・実績：首都圏等の企業者と商談 ・主な商談先：IT事業者、メディア事業者等 （3）地域連携型サテライトオフィスモデル事業 ・補助事業実績：申請5件、5社14名 ▲地域連携型サテライトオフィスモデル事業の様子

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：拡充
課題	・首都圏等から人・企業の流れを創出し、釧路市への呼び込み・移住に結び付ける取り組みを進める必要がある。	課題	・首都圏等から人・企業の流れを創出し、釧路市への呼び込み・移住に結び付ける取り組みを進める必要がある。
今後（令和6年度以降）の方向性	・民間が有する経営能力及び技術的能力等を最大限活かしながら、首都圏等の人・企業の集客及び本市への呼び込みを加速化させる。	今後（令和7年度以降）の方向性	・民間が有する経営能力及び技術的能力等を最大限活かしながら、首都圏等の人・企業の集客及び本市への呼び込みを加速化させる。 ・業務型ワーケーション（地域課題解決）など、企業誘致（サテライトオフィス誘致）に関わる取組に移行していく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	企業立地促進条例補助金＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部産業推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	市内に事業場の取得等をする企業等に対し、課税の免除及び助成の措置を行うことにより、本市経済の発展及び雇用機会の拡大を図り、もって活力あるまちづくりを推進する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	0	0	3,235
財源	一般財源	（千円）	0	0	3,235
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和4年度（決算額）**	**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	7,040	7,136	7,245
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		0.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

釧路市企業立地促進条例に定める対象業種であって、事業場の取得等を行い、投資額や雇用の増加など一定の要件を満たす事業者に対して、課税の免除及び助成を行う。

①補助金
釧路市企業立地促進条例に基づき、一定要件を満たす事業に対して、設備投資資金助成、雇用助成、緑化助成、土地取得助成、事業所賃借料助成、通信回線使用料助成を行う。

②課税免除
釧路市企業立地促進条例に基づき、一定要件を満たす事業において取得した固定資産について、固定資産税及び都市計画税を免除する。

(2)事業の実績と成果

釧路市企業立地促進条例の規定に基づき、申請のあった事業について、次のとおり支援を行った。

①補助金
対象企業なし

②課税免除(令和5年度課税分)
・対象企業　6社
・免除額　19，851千円

③釧路市企業立地促進条例の一部改正
設備投資資金助成について、より地域経済の発展等に効果が見込まれる投資を呼び込むための上限額の引き上げ、並びに、既存企業における重要な設備投資等を支援するための要件緩和に係る条例改正を行った。

【新設】

区分	補助金の上限額が引上げとなる事業場	新たに雇用される者の数	補助金の上限額 改正前	補助金の上限額 改正後（2024.4.1～）
新設	・工場(製造業) ・ソフトウェア業の施設 ・情報処理サービス業の施設 ・データセンター ・コールセンター ・リサイクル産業施設 ・試験研究施設 ・植物工場	5人未満	助成対象外	
		5人以上10人未満	1億円	
		10人以上	1億円	**2億円**

【増設】

区分	新たに雇用される者の数	補助金の額 改正前	補助金の額 改正後（2024.4.1～）
増設	5人未満	助成対象外	**増設により取得した固定資産（土地を除く）の取得価額の4%に相当する額**
	5人以上	増設により取得した固定資産(土地を除く)の取得価額の8%に相当する額	

◎事業の成果
企業の設備投資に対する支援を行う事で、本市経済の発展、雇用機会の拡大につなげることができた。また、条例改正を行うことで、市内における今後の新設・増設について、より幅広く支援することが可能となった。

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価	令和5年度実施事業評価結果	評価　継続維持
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・今後も企業の進出支援や、地元における雇用機会の確保・維持に向け、支援が必要である。
今後(令和6年度以降)の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後(令和7年度以降)の方向性	・今後も引き続き設備投資等を支援するとともに、企業訪問等による企業の現況や課題を踏まえた効果的な支援制度とするための見直しについても、引き続き検討を進め、本市経済の発展、雇用機会の拡大を図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	女性求職者就労促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	潜在的に働く意欲があるものの、求職活動をしていない女性や子育て女性が就業しやすい労働条件等の環境が整っていない企業が多く、子育て女性が就業しやすい条件（短時間勤務等）の求人が少ないため、人材の掘り起こしと働く意欲の醸成、企業への環境整備支援と求人の切り出し提案を行うことを目的とする。女性求職者へセミナー、就労支援講座やキャリアカウンセリングを実施し、人手不足企業へ求人の切り出し提案を実施する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	2,783	2,783	2,785
財源	一般財源	（千円）	1,392	1,392	2,785
	国道支出金	（千円）	1,391	1,391	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	704	714	725
	職員数	（人）	0.1	0.1	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		17.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○ 女性求職者就労促進事業の実施
対象者：子育て等により離職中の女性、キャリアアップを目指す非正規雇用の女性

1．再就職不安解消セミナーの実施
離職中の子育て女性を対象に、就職するメリット、不安解消、就職活動方法、将来の就職に向けた情報提供を行い、就労支援講座への参加を促す。

2．就労支援講座の実施
①離職中の子育て女性を対象に働くための意識づくり、企業・職業スキル向上に資する講座
②非正規雇用で働く女性を対象に正規雇用転職や将来のキャリアアップに資する講座

3．個別キャリアコンサルティングの実施
セミナーや就労支援講座に参加していない離職中の子育て女性からの希望に応じて随時実施する。

○ 企業への求人切り出し提案の実施
対象企業：人手不足企業

1．求人創出の実施
企業に対して子育て女性が就業しやすくなる環境整備支援と短時間勤務等求人の切り出し提案を行う。

(2)事業の実績と成果

○ 女性求職者就労促進事業の実施
事業受託者である㈱MOKA. により、計画通り事業を実施した。

1．再就職不安解消セミナーの実施
実施日　11月10日
参加人数　4名（うち、託児利用者　4名）（申込6名）

2．就労支援講座の実施
①実施期間　9月26日～11月28日　講座回数　10回
参加人数　7名（うち、託児利用者　6名）
②実施期間　9月26日～10月24日　講座回数　5回
参加人数　5名

3．個別キャリアコンサルティングの実施
実施なし
※厚生労働省 地域雇用活性化推進事業で実施（釧路市事務局）

◎新規就労者数　9名

○企業への求人切り出し提案の実施

1．求人創出の実施
実施なし
※厚生労働省　地域雇用活性化推進事業で実施（釧路市事務局）

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：拡充	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・介護等の人手不足業種への新規就労者数を増加させるため、求職者の個々のニーズ（状況）に即した求人開拓及びマッチング機会の提供を実施する必要がある。	課題	・女性求職者向けのセミナーや講座等への参加率が横ばい・減少傾向にある。
今後(令和6年度以降)の方向性	・子育て世代女性の再就職支援とともに、将来に不安を抱える非正規雇用女性のキャリアアップを支援するほか、企業との連携により短時間勤務が可能となる求人の切り出しを図ることで、女性の活躍を促進する。	今後(令和7年度以降)の方向性	・子育て世代女性の再就職支援とともに、将来に不安を抱える非正規雇用女性のキャリアアップを支援することで、女性の活躍を促進する。 ・セミナーや講座内容・実施方法等の見直しを図る。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	人材確保・定着促進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	生産年齢人口の減少が加速しており、特に社会減については市外への進学・就職による影響が大きい。これを食い止めるために、地域を離れる前に地元企業の情報や魅力を伝える取組を実施する。実施に当たっては、関係機関が実施していない手薄な部分の事業を構築する。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	811	7,940	15,755
財源	一般財源	（千円）	412	7,619	0
	国道支出金	（千円）	232	321	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	167		15,755

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	0	0	0
	職員数	（人）			
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		50.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①振興局主催「じもと×しごと発見フェア」への会場費支援 地域の企業の魅力を発信する企業展示会を開催し、若年者の地元の就職を促進するとともに、早期離職防止を図る。	①振興局主催「じもと×しごと発見フェア」への会場費支援 開催日：1月24日 ◎参加者数：215名、◎参加企業数：25社
②釧路商工会議所主催「くしろ合同会社説明会」への会場費支援 2024年3月卒業予定の学生及び高校生等を対象とした合同企業説明会の開催。	②釧路商工会議所主催「くしろ合同会社説明会」への会場費支援 開催日：5月10日 ◎参加者数：214名、◎参加企業数：66社
③教育局主催「新規高等学校卒業予定者等企業説明会」への会場費支援 2025年3月卒業予定の高校生を対象とした合同企業説明会の開催。	③教育局主催「新規高等学校卒業予定者等企業説明会」への会場費支援 開催日：3月8日 ◎参加者数：164名、◎参加企業数：55社
④「商業高校釧路の企業人による講話・交流会」の開催 地元企業人が、それぞれの職業のやりがいや地元企業の魅力を伝える講話・交流会の開催。	④「商業高校釧路の企業人による講話・交流会」の開催 開催日：2月2日 ◎参加企業数：16社、◎参加生徒数：309名
⑤「北陽高校釧路の企業人特別講座」の開催 地元企業人がそれぞれの職業のやりがいや地元企業の魅力、地元で働く意義を伝える講座の開催	⑤「北陽高校釧路の企業人特別講座」の開催 開催日：2月22日 ◎参加企業数：13社、◎参加生徒数：387名
⑥「明輝高校お仕事スタートアップガイダンス」の開催 地元企業人がそれぞれの職業のやりがいや地元企業の魅力、地元で働く意義を伝える講座の開催	⑥「明輝高校お仕事スタートアップガイダンス」の開催 開催日：8月31日 ◎参加企業数：6社、◎参加生徒数：198名
⑦奨学金返済支援事業の実施 人材確保及び人材の定着を促進するため、協力企業とタイアップした奨学金の返済支援を実施する。	⑦奨学金返済支援事業の実施 ◎登録企業数：48社、◎交付人数：11名 ◎交付金額合計：626千円
⑧インターンシップ受入支援事業の実施 インターンシッププログラムの作成等を実施し、企業のインターンシップ受入を支援する。	⑧インターンシップ受入支援事業の実施 ◎受入企業数：3名、◎参加学生数：13名
⑨採用力強化・情報発信事業の実施 民間就職支援サイトに釧路エリア特集ページを設け、市内企業の情報を掲載する。	⑨採用力強化・情報発信事業の実施 ◎掲載企業10社、◎採用人数：8名

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：拡充
課題	・少子化や進学率の上昇により、企業説明会の参加者数は減少している。その為、企業説明会だけでなく奨学金返済事業を認知してもらい、市内就職のメリットを発信していくことが必要。	課題	・少子化や進学率の上昇により、企業説明会の参加者数は減少している。その為、企業説明会の開催に加え、奨学金返済支援事業を市内外の学生等に積極的に発信していくことが必要。また、人材確保や育成に積極的に投資する優良企業の発掘とその情報発信及び企業全体の採用力の底上げのための支援が必要。
今後(令和6年度以降)の方向性	・これまでの取り組みは継続し、今年度からスタートした奨学金返済支援制度に関しては登録企業と利用者を増加させるため市HP以外の場でも周知活動を行い、企業の魅了向上および大学進学者等の人材確保に取り組んでいく。	今後(令和7年度以降)の方向性	・奨学金返済支援事業に関しては登録企業と利用者を増加させるため、就職・移住関連イベント等の場において積極的に周知活動を行い、企業の魅了向上および大学進学者等の人材確保に取り組んでいく。

令和5年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	UIJターン推進事業＜当初＞
分類	令和5年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部商業労政課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	人口が減少する中でも地域経済の活力を維持していくため、市外から市内企業に就職する人を増やすことを目的として、求職者と求人企業の登録制度によりUIJターンの就職マッチングを行う。

【予算・決算データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	3,450	8,317	17,416
財源	一般財源	（千円）	1,175	3,617	0
	国道支出金	（千円）	2,275	4,150	7,500
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		550	9,916

【参考データ】			令和4年度（決算額）	令和5年度（決算額）	令和6年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	2,112	2,141	2,174
	職員数	（人）	0.3	0.3	0.3
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		53.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　155,880 人（R6.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

1．ワンストップのUIJターン就職マッチング
商業労政課において無料職業紹介機能を取得し、市東京事務所等と連携し、UIJターン就職希望者と人材を求める企業の登録制度を運用し、就職マッチングを行う。

2．UIJターン新規就業支援事業（移住支援金の交付）
国の「わくわく地方生活実現政策パッケージ」を活用し、東京圏から釧路市内へのUIJターン就職者や起業者、テレワーク移住者へ、移住支援金を交付する。
・当初予算：6，000千円

3．釧路市UIJターン支援金
釧路管外から釧路市内へ移住し、新規に対象法人に就業または起業した方へ1人当たり30万円を交付する。
・当初予算：9，000千円

4．UIJターン就職個別相談会
夏休み・お正月等の帰省シーズンに合わせて、UIJターン就職希望者を対象に就職個別相談会を実施するほか、必要に応じて随時個別相談の実施および過年度参加者へのフォローの実施により、企業との就職マッチングを行う。

5．くしろ20歳のつどい（成人式）にてUIJターン就職のPR活動
UIJターン就職の促進を目的に『釧路で働く魅力』をPRする。

6．JOIN移住・交流&地域おこしフェアおよび北海道移住・交流フェア2023（大阪、東京）への出展
市民協働推進課と合同で出展し、直接つながる機会の少ない東京圏、関西圏の移住希望者等に対して就職支援情報や暮らしに関する情報をタイムリーに伝えることで、移住およびUIJターン就職を促進する。

(2)事業の実績と成果

1．ワンストップのUIJターン就職マッチング
・求職登録者：39名（新規登録33名、登録抹消19名）
・求人企業登録：のべ181社（新規登録46社）
・就職マッチング：14件
◎UIJターン就職者：9名

2．UIJターン新規就業支援事業（移住支援金の交付）
◎釧路市実績：就職2件　テレワーク3件
・北海道実績：145件（就職16件、起業5件、テレワーク119件、その他5件）

3．釧路市UIJターン支援金
交付予定：就業2件

4．UIJターン就職個別相談会
①【夏の個別相談会】8月10、11日
　参加者数：4名（来場4名）、就職決定数：0名
②【冬の個別相談会】1月6日
　参加者数：2名（来場1名、オンライン1名）、就職決定数：0名
③【釧路合同企業説明会】1月27日
　参加者数：5名（来場5名）、就職決定数：3名
④【日程外での希望者に対する個別相談】通期で随時実施
　参加者数：1名（来場1名）、就職決定数：1名
◎合計　参加者数：12名、就職決定数：4名

5．くしろ20歳のつどい（成人式）にてUIJターン就職のPR活動
・対象者案内状にUIJターン就職促進チラシを同封
・UIJターン「釧路企業情報誌」の作成と配布（配布数：100部）
・新成人用記念写真撮影ブースの設置（釧路会場施設内）

6．移住フェア等への出展
【JOIN移住・交流&地域おこしフェア】1月13、14日
◎ブース来場者数（2日間計）：38組47名
【北海道移住・交流フェア2022】
大阪会場10月14日、東京会場11月11日
◎ブース来場者数（2日間計）：68組89名

【釧路市ブース】

3　事業実施上の課題と今後（令和7年度以降）の方向性、見通し等

令和4年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・新型コロナウイルス感染対策の行動制限緩和や働き方の変化により、UIJターン就職希望者からの相談は一定数寄せられているが、ミスマッチングが多く、採用に結び付かないケースが多い。	課題	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、行動制限等が緩和され、UIJターン就職マッチングの求職登録者が増加し、それに伴いUIJターン就職者も増加したが、依然として求職者と企業とのミスマッチングが起きている。
今後(令和6年度以降)の方向性	・市独自のUIJターン支援金を運用するとともにワンストップのUIJターン就職マッチングにおいて、UIJターン就職希望者及び求人企業と状況確認等のヒアリングを定期的に行いミスマッチングを防ぐことや、都市圏における移住フェア等への参加時に積極的な情報発信を行うことにより、UIJターン就職の促進を図る。	今後(令和7年度以降)の方向性	・市独自のUIJターン支援金の周知と、UIJターン就職マッチングにおいては、ミスマッチング防止の為、求人企業の情報を収集し、UIJターン就職希望者に対して、適宜提供することや、都市圏における移住フェア等への参加時に積極的な情報発信を行うことにより、UIJターン就職の促進を図る。